



Title	戦後における元造船官の経歴に関する資料
Author(s)	沢井, 実
Citation	大阪大学経済学. 2016, 66(1), p. 44-63
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/57204
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【資料】

戦後における元造船官の経歴に関する資料*

沢 井 実†

はじめに

海軍艦艇の建造に当たって海軍造船官が大きな役割を果たした。造船官は技術士官である武官と海軍技師である文官に分かれた。造船官は、造兵、造機などの技術官とともに海軍技術官を構成した。1942年11月には戦時編制として、従来の造船・造兵・造機などの呼称を廃止して、「技術」に統合した。また38年には短期現役制度が新設されたために武官の採用数が急増し、以後武官は永久服役士官と短期現役士官に分かれることになった。造船官に関する短期現役制度とは、大学あるいは高等工業学校で造船工学を学び、民間造船所などに就職した後、志願によって海軍に奉職し、原則として2年間の勤務の後、原勤務先に戻る制度であるが、なかにはその後ふたび応召して海軍に勤務した者もいた。続いて39年からは文官から武官への転官が可能となったため、海軍技師から武官への転身の道が開けた。

1945年8月15日に現役として海軍に在籍し、艦艇の造修業務に従事していた者は、表1に示されているように、武官350名、文官168名、嘱託4名、合計522名であった。終戦前に

表1 終戦時の現役造船官数

(人)

所轄別	武官	文官	嘱託	合計
海軍艦政本部	33	24		57
海軍技術研究所	11	11	3	25
横須賀海軍工廠	60	19		79
呉海軍工廠造船部ほか	62	22		84
呉海軍工廠造船実験部	3	9		12
佐世保海軍工廠	51	15		66
舞鶴海軍工廠	42	12		54
海軍艦政本部造船監督官関係	41	44		85
海軍工作部関係	33	9		42
艦隊・教官等	8			8
海軍航空本部関係	3	3		6
軍需省関係	2			2
海軍省関係	1		1	2
合計	350	168	4	522

〔出所〕（海軍）造船会・会員業績顕彰資料作成委員会編『太平洋戦争終結時における造船官の配置表』1988年、2頁。

離任した9名を加えた武官359名の内訳は永久服役229名、短期現役130名であり、出身校の内訳は東大187名、九大49名、阪大40名、横浜高等工業学校64名、大阪高等工業学校（工業専門学校）15名、その他4名であった¹。文官168名のうち103名は海軍技手養成所修了者であり、残りは帝大、高等工業学校卒業者などであった。

終戦時現役であった造船官522名の所管別内訳の詳細を見たのが、表2-1～表2-10で

* 横浜国立大学工学部造船工学科名簿委員会編『横浜国立大学工学部造船（航空）工学科卒業生名簿』の閲覧については、横浜国立大学名誉教授・弘陵造船航空会会長平山次清先生にたいへんお世話になった。記して謝意を表したい。

† 南山大学経営学部教授、大阪大学名誉教授。

¹ 桜井清彦編『造船官の記録 戦後編』海軍造船会、2000年、481頁。

ある。同表には基本的に 1951 年と 1959 年の 2 時点における元造船官の就職先が示されている。終戦時に現役であった武官 350 名のうち戦後の詳しい経歴が判明する 166 名に終戦前に海軍を離任していた武官、さらに若干の文官を加えた元造船官 202 名の戦後の軌跡を示したのが表 3-1～表 3-7 である。

元造船官の戦後の帰趨については、元造船官の「大部分が民間の造船業に吸収された²⁾」との指摘があるが、表 2-1～表 2-10 および表 3-1～表 3-7 から判断するかぎり、これは就職先として民間造船業をやや過大評価しているようにみえる。民間造船所が最大の就職先であったことは明らかであるが、防衛庁・海上自衛隊、横須賀米海軍艦船修理廠 (Ship Repair Facility: SRF)、鉄道技術研究所、海上保安庁、大学関係も無視できない。民間造船所勤務の場合も海上自衛隊用の艦艇建造にたずさわる者も例外的存在ではなく、元造船官が民間造船企業でいかなる業務を担ったかも検討されるべきであろう。また海軍から民間部門への移動は決して円滑に進んだ訳ではなかった。結果的に民間造船所に職場を見つけた者のなかにも戦後のブランク、さまざまな職業経験をへて民間造船所に安定した職場を見出した者が数多くいた。元造船官が「民間の造船業に吸収されるプロセス」はきわめて多様であった。

終戦時に海軍艦政本部部員・技術少佐であり、戦後は日立造船に勤務した小野塚一郎は終戦直後の状況を以下のように回顧している³⁾。

終戦に伴い当然のこととして、造船官全員が海軍を離れることになった。海軍に在勤中の短期現役の方たちは、直ちに原則として原勤務先に戻ったが、海軍プロパーの

方たちは全部失業となった。そして、出来たらその技術力を生かす所に職を求めたかったが、その辺のことは必ずしもうまく(いー引用者補足) かなったと云うのが、実情であった。

民間造船所側としても大変な事情にあった。極度の繁忙から最低の操業に変わった。最低と云うよりゼロと云った方がよかったかも知れない。そして進駐軍の造船に対する態度も判らないし、前途の見透しを立てることも困難であった。従って、造船所のなかには、そこの出身の短現の方の復帰を必ずしも歓迎しない所もあったが、無理もない所でもある。然し若干の造船所では、造船官の人柄と技術を惜しんで、少数或いは小グループを新たに採用されておる。

その後昭和二十三年頃になると、進駐軍の意向も大体読めるようになったし、また輸出船にその企業の活路を求めうる可能性も出て来たので、若干の造船官が民間の会社などに、造船技術者として職を得る事が出来るようになった。この場合でも前述の造船官としての同窓会的な構造が、それなりに役立っていたように推察される。

造船官一人ひとりの戦後の歩みを安易に類型化することはできないが、一方で彼らの多くが戦後も深い横の繋がり維持しつつ困難な戦後を切り開いていったことも事実である。占領下の 1951 年には「造船技術者近況」と題する名簿が作成され、そこには約 400 名の元造船官の氏名、住所、勤務先が記されていた。55 年の「造船会会員名簿」では約 600 名が収録されていた⁴⁾。しかし、同時に関東地区在住の会員 200 名に造船会大会への参加を呼びかけたところ、30 名しか集まらなかったという現実にも留意しなければならない。

²⁾ 片山信『日本の造船業』日本工業出版、1970 年、142 頁。

³⁾ 小野塚一郎「海軍技術物語 (6) - 造船官の技術と人脈 -」(『水交』第 368 号、1984 年 10 月) 22 頁。

⁴⁾ 前掲『造船官の記録 戦後編』472 頁。

表2-1 海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	短	艦	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51年勤務先	59・60・68年勤務先
海軍艦政本部 関係・武官	福田 啓二				1890	技術中佐	艦本技術監兼兼技術会議議員	東大	1914	日本海軍協会嘱託	59・60・68年勤務先
	江崎 岩吉				1890	技術中將	艦本第四監兼兼技術会議議員	東大	1917	日立造船・技術顧問	日立造船・技術顧問
	片山 有樹				1894	技術少将	艦本出仕（基本計画主任）兼技術会議議員兼東大教授	東大	1919	防衛庁技術研究所本部嘱託（68年）	
	中村 小四郎				1897	技術大佐	艦本部員兼技術会議議員	東大	1922	三菱造船船舶事業本部顧問（60年）	三菱造船船舶事業本部顧問（60年）
	牧野 茂				1902	技術大佐	艦本部員（設計主任、第六班長）兼技術会議議員、参謀本部附	東大	1925	共進船舶相談役（68年）	共進船舶相談役（68年）
	西園 大輔				1902	技術大佐	艦本部員（自衛部員）兼軍需監補官	九大	1926	横須賀米海軍基地SRF顧問	横須賀米海軍基地SRF顧問
	村田 益太郎				1906	中佐	艦本部員（第一、二、三、四班長）兼技術部員、第二技術廠部員、技術会議議員	九大	1927	三菱造船技術部長（60年）	三菱造船技術部長（60年）
	山口 宗夫	○			1907	技術中佐	艦本総務部部員兼第四部部員（予算部員）	海兵55期、九大	1940	日本鋼管取締役	日本鋼管取締役
	遠山 光一	○			1908	技術中佐	艦本部員兼技術会議議員	東大	1930	西日本重工工業	西日本重工工業
	小見川 信	○			1910	技術中佐	艦本部員（材料班）	東大	1932	日本鋼管船見造船所	日本鋼管船見造船所
	遠山 嘉雄	○			1911	技術中佐	艦本部員兼技術所員、第二技術廠部員、技術会議議員	東大	1933	みささ産業代表取締役社長	みささ産業代表取締役社長
	埴田 清勝	○			1912	技術少佐	艦本部員兼技術所員、技術会議議員	東大	1934	藤永田造船所船舶営業部長（60年）	藤永田造船所船舶営業部長（60年）
	寺田 明	○			1911	技術少佐	艦本部員（第五班長）、技術会議議員	東大	1935	日本鋼管船見造船所	日本鋼管船見造船所
	杉 一夫	○			1909	技術少佐	艦本部員、技術会議議員兼軍需省軍官	東大	1935	日本復興建材	日本復興建材
	堀井 経彦	○			1913	技術少佐	艦本部員（材料班）	阪大	1935	東芝造船	東芝造船
	吉田 隆	○			1912	技術少佐	艦本部員	九大	1936	東海船（設計課）	東海船（設計課）
	小野塚 一郎	○			1912	技術少佐	艦本部員兼技術所員兼第二技術廠部員	東大	1936	アフリカ船機協会検査員	アフリカ船機協会検査員
	西田 正典	○			1912	技術少佐	艦本部員（商船班）	九大	1936	日立造船調査部長	日立造船調査部長
	田中（山下）順男	○			1913	技術少佐	艦本部員（商船班）	東大	1937	日立造船向島工場造船課	日立造船向島工場造船課
	小倉 龍明	○			1916	技術少佐	艦本部員（造船班）	東大	1939	NBC兵造船部業務部長	NBC兵造船部業務部長
	坂井 清彦	○			1918	技術少佐	艦本部員（造船班）	東大	1939	防衛庁海上常務監艦艇部課	防衛庁海上常務監艦艇部課
	渡辺 英一	○			1916	技術少佐	艦本部員（造船班）	東大	1940	石川島重工工業第二工場造船部長	石川島重工工業第二工場造船部長
	松下 雄一	○			1913	技術大尉	艦本出仕（第六班）	東大	1939	佐世保船工造船所	佐世保船工造船所
	崎崎 広藏	○			1915	技術大尉	艦本出仕（商船班）	東大	1939	西日本重工工業船造部	西日本重工工業船造部
	岩崎 正亮	○			1913	技術大尉	艦本出仕（商船班）	東大	1937	東日本重工工業船造部	東日本重工工業船造部
	広瀬 達三	○			1918	技術大尉	艦本出仕、東京監理官兼艦本造船監・督官	阪大	1941	大阪大学工学部助教授	三菱日本重工工業船造部
	野上 秀喜	○			1918	技術大尉	艦本出仕、技術所員	阪大	1941	海上保安庁船舶技術部技術課	海上保安庁船舶技術部技術課
	田坂 鋭一	○			1920	技術大尉	艦本出仕（材料班）	東大	1942	京産精工代表取締役	京産精工代表取締役
	山崎 彦彦	○			1917	技術大尉	艦本出仕（材料班）	横浜	1941	日立造船設計部	日立造船設計部
	岩崎 三郎	○			1920	技術大尉	艦本出仕（第七班）	阪大	1943	日立造船本社設計部	日立造船本社設計部
	高木 敬太郎	○			1923	技術大尉	艦本出仕、技術所員	横浜	1942	石川島重工工業造船設計部	石川島重工工業造船設計部
海軍艦政本部 関係・文官	小淵川 要作				1891	高等官三等	艦本附兼艦本技術部部員	旅順工科学堂	1913		
	但馬 平司				1891	高等官三等	艦本部員兼艦本附技術部部員	物理学校	1916		
	今井 信男				1890	高等官三等	艦本部員	海軍工手学校	1923		
	小倉 健夫				1902	高等官四等	艦本附第四部兼艦本総務部第五課	東大	1928		
	宮井 忠藏				1898	高等官四等	艦本附	技養	1922		
	斎藤 七五郎				1900	高等官四等	艦本附	大坂高工	1920		
	高橋 良次郎				1894	高等官四等	艦本附（第四部兼第七班）	技養	1922		
	御嶋 要				1894	高等官四等	艦本附	技養	1923		
	小山 捷				1904	高等官四等	艦本部員	東大	1929		
	丸石山 三郎				1901	高等官四等	艦本部員	工手学校	1925		
	久保 秀次郎				1892	高等官四等	艦本部員	工手学校	1923		
	高橋 智広衛				1894	高等官四等	艦本部員	技養	1923		
	山本 五郎				1899	高等官四等	艦本部員	技養	1924		
	大神 宗一				1894	高等官五等	艦本部員兼技術会議議員	技養	1924		
	大崎 匡				1899	高等官五等	艦本附	技養	1923		
	井上 隆三				1909	高等官六等	艦本附	仙石高工	1931		
	大野 虎雄				1905	高等官六等	艦本附	技養	1930		
	田井 義宣				1902	高等官六等	艦本附	技養	1926		
	牧野 義三郎				1904	高等官七等	艦本部員	技養	1930		
	山下 繁夫				1906	高等官七等	艦本附	技養	1931		
	今安 三郎				1906	高等官七等	艦本附	技養	1931		
	岩谷 平七				1889	高等官七等	艦本附	技養	1931		
	田部 吉男				1913	高等官七等	艦本附	工手学校	1925		
	村上 久				1910	高等官七等	艦本附（第二班）	東京高等工芸（木材）	1934		
								技養	1935		

【出所】 海軍造船協会業績顕彰資料作成委員会編『太平洋戦争終結時に於ける造船官の履歴表』1988年、10～27頁、学芸会編『会員氏名録』昭和26・27年（1951年）、昭和34・35年用（1959年）、ダイヤモンド社編『ダイヤモンド会社職員録』1960年、横浜国立大学工学部造船工学科名簿委員会編『横浜国立大学工学部造船（航空）工学科卒業生名簿』第4号、1962年8月現在。造船協会「造船官の記録」同会、1965年、652～664頁、技業同窓会編『海軍技手養成所卒業生名簿』第5回、1968年、福田隆清集刊行会編『造船技術は動けり』1968年、坂井清彦編『造船官の記録 戦後編』海軍造船会、2000年。

（注）（1）「没（68年）」は1968年時点で亡くなったことを示す。「1951年勤務先」に「（62年）」が付されている場合は、62年時点での勤務先。

（2）「1959・60・68年勤務先で年次表示のないものは59年現在」を示す。「1951年勤務先」に「（62年）」が付されている場合は、62年時点での勤務先。

（3）「別」欄に○印のある者は、別表（表3-1～表3-7）に経歴の詳細が示されている者。

（4）「短」欄に○印のある者は文官である者は文官から技術士官への転官を示す。

表2-2 海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	短	長	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51年勤務先	59・60・68年勤務先
海軍技術研究所 関係・武官	出淵 飛				1895	技術少将	技研造船研究部長兼技術会議議長、東大教授	東大	1920		
	岡本 方行				1899	技術大佐	技研所員兼艦本総務部第六課長兼技術会議議長、大学校教官	東大	1925		横洋船艇会社監査役
	近藤 忠夫	○			1904	技術中佐	技研造船研究部第一科主任、艦本出仕、東大助教授	東大	1930		呉造船所取締役 (60年)
	大平 正夫				1904	技術中佐	技研造船研究部部員兼業務主任兼第三科主任	九大	1928		
	中島 宣彦	○			1915	技術少佐	技研造船研究部部員	東大	1938	弁理士	
	村中 稔		○		1913	技術少佐	技研造船研究部部員 (第三科)	広島文理大	1938		
	橋本 香一	○		○	1919	技術大尉	技研造船研究部部員 (第三科)	東大	1941	鉄道技術研究所鋼構造研究室	国鉄広島鉄道管理局船舶部長
	篠田 仁吉	○			1921	技術大尉	技研造船研究部部員	東大	1943	鉄道技術研究所防災研究室	鉄道技術研究所造船研究室
	羽田野 哲郎	○		○	1921	技術中尉	技研造船研究部部員	九大	1943		
	向山 政一				1922	技術中尉	技研造船研究部副部員	東大	1944		
	本田 修三	○		○	1923	技術中尉	技研造船研究部副部員	横浜	1943	日立造船因島工場	日立造船因島工場
	赤崎 繁	○			1898	予備役新大佐	海軍省嘱託技研勤務 (東大教授)	東大	1922	東洋電機工業取締役	大阪府立大学工学部長
海軍技術研究所 関係・文官	松山 武秀				1896		海軍省嘱託技研勤務 (藤原工大教授)	東大	1919		長井江崎特許事務所技術顧問
	木下 昌雄	○			1914	予備役新大尉	海軍省嘱託技研勤務 (東大助教授)	東大	1937	日立造船技術研究所	日立造船技術研究所長
	池上 作太郎				1887	高等官三等	技研造船研究部部員	工手学校	1928		
	佐藤 正彦				1907	高等官四等	技研造船研究部部員	東大	1932		日本海事協会技術研究所
	大津 義徳				1909	高等官五等	技研造船研究部部員	東大	1934	水産庁漁船研究室	水産庁漁船研究室長
	有吉 金太				1897	高等官五等	技研造船研究部部員	技養	1926		日本包装協会顧問 (88年)
	高橋 史城				1902	高等官五等	技研造船研究部部員	技養	1926		石川島播磨重工業・船殻事業部 (88年)
	鬼頭 史城				1902	高等官五等	技研所員 (造船研究部勤務)、兼艦本部員 (第五部)	名古屋電気学校	1918		
	中本 誠				1913	高等官七等	技研附造船研究部	横浜	1935	没 (82年)	
	杉原 喜蔵				1905	高等官七等	技研附造船研究部	物理学校	1934		
	神田 文四郎				1905	高等官七等	技研附造船研究部	技養	1931		
	松下 祐一				1907	高等官七等	技研附造船研究部	技養	1932		林業造船・囃託 (68年)
	宇根 繁				1911	高等官七等	技研附兼艦本出仕	横浜 (応化)	1934		

表2-4 海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	期	艦	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51年勤務先	59・60・68年勤務先
兵海軍工廠・武官	芳井 一夫	○			1894	技術少将	兵艦造船部長	東大	1933	前畑造船工・社長	59・60・68年勤務先
	加藤 恭亮	○			1899	技術少将	兵艦造船部長	東大	1923	前畑造船工・社長	前畑造船工・社長
	松本 喜太郎	○			1903	技術大佐	兵艦造船部長 (設計主任) 兼陸軍運輸部員	東大	1927	浦賀船渠	佐世保船舶工業顧問
	林 邦雄				1903	技術大佐	兵艦造船部長 (設計主任) 兼陸軍運輸部員	東大	1928	浦賀船渠	浦賀船渠艦艇営業部付
	岡村 恒四郎	○			1904	技術中佐	兵艦造船部長 (兼造船部検査官、艦本造船監督官 (広島))	東大	1925	大和産業	大和産業
	原田 連一郎				1907	技術中佐	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員、潜水学校教官	東大	1929	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (60年)
	馬場 清三	○			1909	技術中佐	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1931	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	堀下 喜代作				1910	技術中佐	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1933	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	今井 恭	○			1912	技術少佐	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1935	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	若松 守朗	○			1916	技術少佐	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1939	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	古川 澄	○			1917	技術少佐	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1940	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	清水 正武	○			1917	技術少佐	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	長 大徳	○			1917	技術少佐	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	岩内 見雄	○			1918	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	大野 民雄	○			1918	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	原 紀	○			1918	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	沢原 正則	○			1918	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	但馬 利和	○			1918	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	桂井 清吉	○			1916	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	橋本 純昭	○			1920	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	村上 正孝	○			1920	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	中野 敏夫	○			1918	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	高橋 哲夫	○			1920	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	伊賀 智	○			1920	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	安藤 忠夫	○			1919	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	河合 元夫	○			1919	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	村上 (山下) 元夫	○			1918	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	小野 栄八郎	○			1919	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	古賀 祐泰	○			1920	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	甲斐 敬二	○			1917	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	吉武 有真	○			1921	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	戸田 仁志	○			1922	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	川島 茂和	○			1922	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	瀧沢 宗人	○			1922	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	渡辺 亮	○			1922	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	高橋 隆義	○			1922	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	白石 英治	○			1922	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	井上 英治	○			1922	技術大尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	八木 和夫	○			1922	技術中尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	田辺 (片岡) 謙三	○			1921	技術中尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	米倉 邦彦	○			1923	技術中尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	中山 忠興	○			1916	技術中尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	田村 忠興	○			1919	技術中尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	佐々木 一郎	○			1922	技術中尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	細野 末広	○			1924	技術中尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	島田 博之	○			1924	技術中尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	坂本 秀成	○			1924	技術中尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	大竹 良一	○			1924	技術中尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	小津 秀成	○			1924	技術中尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	野村 英男	○			1924	技術中尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	芳野 太郎	○			1924	技術少尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	中神 凡夫	○			1924	技術少尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	藤田 孝彦	○			1924	技術少尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	堀田 祐起	○			1924	技術少尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	柴田 善次	○			1924	技術少尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)
	谷本 喜一	○			1924	技術少尉	兵艦造船部長 (船渠主任) 兼広島造船物産課部員	東大	1941	日立造船	日立造船 会山工場管理課長 (68年)

表 2 - 5 海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	短	転	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51 年勤務先	59・60・68 年勤務先
呉海軍工廠・文官	辻 影雄				1888	高等官三等	呉廠造船部部員	技養	1922		没 (68 年)
	浜村 雅男				1894	高等官四等	呉廠造船部部員	技養	1922	水野造船所	日野工業・設計部 (68 年)
	山中 三郎				1902	高等官四等	呉廠附兼第一技養教官	東大	1928		川崎重工業清水廠部長
	楠 修敏				1889	高等官五等	呉廠造船部部員、広工廠工作機械実験部部員	甲種職工学校	1906		
	宇野田 巖				1905	高等官五等	呉廠附	阪大	1933	海上保安庁船舶技術部	
	牧山 幸弥	○			1911	高等官五等	呉廠附	東大	1935		防衛庁防衛大学校教授
	新納 与一				1898	高等官五等	呉廠附	技養	1925		没 (68 年)
	古川 忠				1900	高等官六等	呉廠附兼造船兵験部部員、製鋼部部員、11 航空廠部員	広島 (機)	1926		関西工業・社長 (68 年)
	津古 良幸				1912	高等官六等	呉廠造船部部員	技養	1924		
	荒谷 勝三郎				1891	高等官六等	呉廠附	技養	1926		
	森 照雄				1895	高等官六等	呉廠造船部部員兼第一技養教官	技養	1928		
	佐々木 幸正				1901	高等官六等	呉廠造船部部員	技養	1926		横濱ヨット・囀託 (68 年)
	多川 弘				1900	高等官六等	呉廠附	横濱	1933	三建設備工業㈱ (62 年)	
	田中 教人				1912	高等官六等	呉廠造船部部員	見習入業	1896		
	苗加 孝一				1884	高等官七等	呉廠附	技養	1927		
	和泉 正一				1900	高等官七等	呉廠附	技養	1924		
	大田 実				1894	高等官七等	呉廠附	技養	1930		大呉興産 (68 年)
	芦岡 武男				1902	高等官七等	呉廠附	技養	1930		陽光設計 (68 年)
	竹原 静男				1908	高等官七等	呉廠附	横濱	1930		没 (68 年)
呉海軍工廠・造船実験部武官	中山 義男				1903	高等官七等	呉廠附	技養	1930		
	古川 善男				1907	高等官七等	呉廠附	技養	1933		
	板倉 登				1906	高等官七等	呉廠附	技養	1933		呉船産業
	小岩 健	○			1899	技術大佐	呉廠造船実験部部員兼製鋼実験部部員	東大	1924	横浜工作所	運輸省第二港湾建設局横浜工場
	寺尾 貞一	○			1911	技術少佐	呉廠造船実験部部員	東大	1935	播磨造船所相在工場研究部長 (60 年)	
	吉成 正	○			1916	技術大尉	呉廠造船実験部部員	東大	1939	日本郵船	日本郵船工務部保船課長
呉海軍工廠・造船実験部文官	金子 又三郎				1886	高等官三等	呉廠造船実験部部員兼製鋼実験部部員	技養	1923		没 (68 年)
	江頭 健				1908	高等官四等	呉廠造船実験部部員 (第二科主任兼第四科主任)	東大	1932	運輸省船舶研究所	
	古賀 光太郎				1900	高等官五等	呉廠造船実験部部員	技養	1924	没 (68 年)	
	多田 美朝				1911	高等官六等	呉廠附兼第一技養教官 (造船実験部)	広島文理 (物理)	1936		
	山本 雄民				1901	高等官六等	呉廠附 (造船実験部)	高等工業	1928		
	岡本 勇雄				1897	高等官六等	呉廠附 (造船実験部)	技養	1924		
	為広 重雄				1909	高等官六等	呉廠造船実験部部員	技養	1930		
	奥田 貞利				1902	高等官七等	呉廠附 (造船実験部)	広島 (応化)	1929		興和化成・本社 (顧問) (68 年)
	氏九 和夫				1914	高等官七等	呉廠附 (造船実験部)	技養	1934		
								広島 (応化)			

表2-6 海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	期	艦	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51年勤務先	59・60・68年勤務先
在世家海軍 工廠・武官	森川 信雄	〇			1897	技術大佐	左衛造船部部員	東大	1922		呉艦渠取組役 (68年)
	福井 文雄	〇			1899	技術大佐	(作業主任) 長崎監理官兼軍需監理官	東大	1924		
	小堀 龍造	〇			1899	技術大佐	左衛造船部部員 兼造船部候本官	東大	1924		
	矢田 健二	〇			1907	技術大佐	左衛造船部部員 (船政主任)	東大	1926		石川島重工業東京第二工場設計部長
	村上 外雄	〇			1904	技術中佐	左衛造船部部員 (設計主任)	東大	1929	石川島重工業東京第二工場設計部長	三保造船所取組役 (東京事務所長)
	西原 虎夫				1908	技術中佐	左衛造船部部員 (艦政主任)	東大	1931	伊万里湾重工工業取組役	
	高橋 利貞				1914	技術少佐	左衛造船部部員 兼 21 航空廠部員	東大	1933	名村造船所	
	坂野 高定				1915	技術少佐	左衛造船部部員	横浜	1938	日露造船業 (62年)	
	小平 清秀	〇			1916	技術少佐	左衛造船部部員	東大	1939	山崎造船 (50年)	海上自衛隊東京監督官
	總波 芳夫	〇			1916	技術少佐	左衛造船部部員	阪大	1940		
	米田 義雄	〇			1916	技術少佐	左衛造船部部員 兼艦本造船監督官 (浦崎)	東大	1940	川崎造船 (50年)	安川電機製作所中野回航機課長
	神田 春夫	〇			1917	技術少佐	左衛造船部部員	東大	1941	石川島重工業	石川島造船所
	鈴木 孝一	〇			1917	技術大尉	左衛造船部部員	東大	1941	NBC 航空部	呉造船所造船工作部長兼艦艇部付 (60年)
	高柳 武男	〇			1917	技術大尉	左衛造船部部員	阪大	1941	運輸省船舶局造船課	防衛庁装備局船舶課長
	加藤 孝一	〇			1918	技術大尉	左衛造船部部員	東大	1941	三井造船船政局設計課	三井造船玉野造船所機設計課長
	小宮山 隆三	〇			1918	技術大尉	左衛造船部部員	東大	1941	浦賀船渠	浦賀船渠造船所設計課長
	下川 川島 栄一	〇			1920	技術大尉	左衛造船部部員	東大	1941	慶應義塾大学医学部助手	長門町立病院 (長野県) 産婦人科医長
	平岡 通彦	〇			1920	技術大尉	左衛造船部部員	東大	1942	川崎重工業	川崎重工業造船工場艦艇課長
	池内 久	〇			1920	技術大尉	左衛造船部部員	東大	1942	石川島重工業	
	小川 愛雄	〇			1919	技術大尉	左衛造船部部員	東大	1942	川崎重工業	
	加藤 清三	〇			1921	技術大尉	左衛造船部部員	東大	1943	川崎重工業 (62年)	三菱日本重工業横浜造船所
	沢田 修光	〇			1922	技術大尉	左衛造船部部員	横浜	1943	東日本重工業横浜造船所	日本鋼管本社プラント部課長
	北村 修	〇			1918	技術大尉	左衛造船部部員	東大	1943	日本鋼管船員造船所	北村修造事務所所長
	和田 泰二	〇			1921	技術大尉	左衛造船部部員	東大	1943	三井造船所具船渠	呉造船所技術部次長
	田代 洋一	〇			1921	技術大尉	左衛造船部部員	九大	1943	日本鋼管	日本鋼管
	短田 泰英	〇			1920	技術大尉	左衛造船部部員	阪大	1943	九州大学助教・工学部造船教室	九州大学助教・工学部造船教室
	西野 清泰	〇			1919	技術大尉	左衛造船部部員 兼造船部部員	阪大	1943		農業
	長岡 徳久	〇			1922	技術中尉	左衛造船部部員	東大	1943		
	中野 隆	〇			1922	技術中尉	左衛造船部部員	東大	1944	浦賀船渠浦賀造船所	浦賀船渠浦賀造船所溶接課長
	中野 隆	〇			1922	技術中尉	左衛造船部部員	東大	1944	日本郵船	
	森 忠三郎	〇			1920	技術中尉	左衛造船部部員	東大	1944	日立造船	日立造船
	佐藤 周作	〇			1921	技術中尉	左衛造船部部員	東大	1944	日立造船因島工場	
	元良 宗夫	〇			1922	技術中尉	左衛造船部部員	東大	1944	日立造船因島工場	
	竹下 宗夫	〇			1923	技術中尉	左衛造船部部員	東大	1944	日立造船因島工場	
	直理 民郎	〇			1921	技術中尉	左衛造船部部員	東大	1944	日立造船因島工場	
	古川 宗秋	〇			1923	技術中尉	左衛造船部部員	東大	1944	日立造船因島工場	
	矢吹 幸兵衛	〇			1924	技術中尉	左衛造船部部員	東大	1944	日立造船因島工場	
	堀谷 三三	〇			1922	技術少尉	左衛造船部部員	東大	1944	日立造船因島工場	
	塩谷 栄太郎	〇			1924	技術少尉	左衛造船部部員	東大	1944	日立造船因島工場	
	松本 須磨	〇			1922	技術少尉	左衛造船部部員	東大	1944	日立造船因島工場	
	須磨 彰一	〇			1922	技術少尉	左衛造船部部員	東大	1944	日立造船因島工場	
	川崎 博	〇			1924	技術少尉	左衛造船部部員	東大	1944	日立造船因島工場	
	内田 武次	〇			1925	技術少尉	左衛造船部部員	東大	1944	日立造船因島工場	
在世家海軍 工廠・文官	山本 実三郎				1896	高等官四等	佐衛附	技養	1922		没 (68年)
	中山 善人				1898	高等官四等	佐衛造船部部員	技養	1923		没 (68年)
	大山 晋次郎				1895	高等官五等	佐衛附	技養	1924		没 (68年)
	石橋 初次				1897	高等官五等	佐衛造船部部員	技養	1924		没 (68年)
	渡辺 梅太郎				1886	高等官六等	佐衛附	技養	1925		没 (68年)
	高山 市兵衛				1883	高等官六等	佐衛附	技養	1925		没 (68年)
	鶴 次郎				1901	高等官六等	佐衛附	技養	1925		没 (68年)
	藤川 仁一				1899	高等官六等	佐衛造船部部員	技養	1925		没 (68年)
	山本 茂				1902	高等官六等	佐衛附	技養	1926		没 (68年)
	山口 秀夫				1910	高等官七等	佐衛附	技養	1927		没 (68年)
	細川 庄吉				1905	高等官七等	佐衛附	技養	1927		没 (68年)
	堀野 五郎				1911	高等官七等	佐衛附	技養	1927		没 (68年)
	桑山 隆太郎				1905	高等官七等	佐衛附	技養	1927		没 (68年)
	山崎 隆太郎				1908	高等官七等	佐衛附	技養	1927		没 (68年)
	山崎 隆太郎				1908	高等官七等	佐衛附	技養	1927		没 (68年)
	山崎 隆太郎				1907	高等官七等	佐衛附	技養	1927		没 (68年)

表2-7 海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	短	経	生年	最終階級	配属および役職	出身学校	卒業年次	51年勤務先	59・60・68年勤務先
舞鶴海軍工廠・ 武官	小田 勝治	○			1897	技術少佐	舞鶴造船部部長	東大	1925	舞野産業顧問	パシフィックマリーニングコーポレーション
	塩山 卓一	○			1901	技術大佐	(作業主任)(富山監理官)	東大	1922	舞野重工業造船部艦艇兵器部長	
	船越 卓	○			1908	技術中佐	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1932	設計会社社長	
	山下 啓三	○			1909	技術中佐	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1934	日鐵汽船工務監督	
	河東 克己	○			1911	技術少佐	舞鶴造船部部員	東大	1935	機務員海軍軍械修理廠コンサルタント	
	緒明 亮作	○			1915	技術少佐	舞鶴造船部部員	東大	1937	防衛庁技術部艦船課	
	井上 淳一	○			1915	技術少佐	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1936	光工業株式会社(横須賀市)	
	北村 源三	○			1917	技術少佐	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1940	NBC汽船常務取締役	
	安野 正義	○			1915	技術少佐	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1939	四国海運局船舶部長	
	松島 茂之	○			1917	技術少佐	舞鶴造船部部員	東大	1941	運輸省海運局	
	三輪(朝永)信雄	○			1917	技術大尉	舞鶴造船部部員	東大	1941	運輸省海運局	
	高根(鈴木)敬	○			1918	技術大尉	舞鶴造船部部員	阪大	1941	船舶技術協会	
	橋本 信立	○			1919	技術大尉	舞鶴造船部部員	東大	1942	海上警備隊艦船課	
	川上 茂之	○			1920	技術大尉	舞鶴造船部部員	東大	1942	水産庁生産部艦船研究室	
	西嶋 輝彦	○			1920	技術大尉	舞鶴造船部部員	阪大	1942	川崎重工工業艦船工場工作課	
	片山 賢輔	○			1919	技術大尉	舞鶴造船部部員	阪大	1941	ロイド船級協会	
	池端 實輔	○			1921	技術大尉	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1941	石川島重工工業造船部	
	上田 正造	○			1919	技術大尉	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1943	運輸技術研究所船舶性能部研究室	
	山内 保文	○			1919	技術大尉	舞鶴造船部部員	東大	1943	日立造船東京事務所船舶課	
	中西 哲一郎	○			1921	技術大尉	舞鶴造船部部員	東大	1943	日立造船物産専務取締役	
	新木(細野)寛	○			1919	技術大尉	舞鶴造船部部員	東大	1943	運輸省大臣官房企画課	
	春永 盛生	○			1920	技術大尉	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1942	日本海軍協会大阪支部検査員	
	山崎 恒雄	○			1920	技術中尉	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1944	日本鋼管船舶営業部	
	岡崎 順一	○			1920	技術中尉	舞鶴造船部部員	東大	1944	浦賀船渠	
	中村 孝	○			1921	技術中尉	舞鶴造船部部員	東大	1944	日本鋼管船見造船所	
	長谷川 正	○			1921	技術中尉	舞鶴造船部部員	東大	1944	播磨造船所	
	根本 広太郎	○			1921	技術中尉	舞鶴造船部部員	東大	1944	林業造船所	
	日下部 哲	○			1921	技術中尉	舞鶴造船部部員	阪大	1944	宝倉水産物産部	
	小林 鉄男	○			1922	技術中尉	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1943	自営(62年)	
	兼重 信	○			1923	技術中尉	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1944	大機建築設計事務所(62年)	
	金沢 四郎太	○			1923	技術中尉	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1944	日本鋼管船見造船所	
	生田目 忠雄	○			1924	技術少尉	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1944	三菱造船広島造船所(62年)	
	松谷 繁次	○			1924	技術少尉	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1944	舞野重工業舞鶴造船所	
	桑木 清	○			1924	技術少尉	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1944	舞野重工業舞鶴造船所	
	大機 健二	○			1924	技術少尉	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1944	舞野重工業舞鶴造船所	
	岡根 通男	○			1923	技術少尉	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1944	舞野重工業舞鶴造船所	
	藏野 楠雄	○			1923	技術少尉	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1944	舞野重工業舞鶴造船所	
	友田 清	○			1923	技術少尉	舞鶴造船部部員	舞鶴造船部部員	1944	舞野重工業舞鶴造船所	
	三郎 正三	○			1907	高等官五等	舞鶴附(船渠主任)	阪大	1933	舞野重工業舞鶴造船所	
舞鶴海軍工廠・ 文官	村山 正太				1887	高等官五等	舞鶴附	工学院	1930	舞野重工業舞鶴造船所	
	国松 房藏				1907	高等官六等	舞鶴附	東大	1929	舞野重工業舞鶴造船所	
	更井 一夫				1909	高等官六等	舞鶴附	徳島高工(機)	1930	舞野重工業舞鶴造船所	
	田中 潔				1904	高等官六等	舞鶴附	広島高工(機)	1931	舞野重工業舞鶴造船所	
	津崎 良二				1908	高等官六等	舞鶴附	千葉	1928	舞野重工業舞鶴造船所	
	大村 繁一				1891	高等官六等	舞鶴附	見習	1911	舞野重工業舞鶴造船所	
	西村 久次				1895	高等官七等	舞鶴附	千葉	1930	舞野重工業舞鶴造船所	
	矢野 一雄				1901	高等官七等	舞鶴附	千葉	1930	舞野重工業舞鶴造船所	
	武重 利一				1913	高等官七等	舞鶴附	千葉	1932	舞野重工業舞鶴造船所	
	高橋 安太郎				1908	高等官七等	舞鶴附	東高工(金工系)	1932	舞野重工業舞鶴造船所	
	井出 勇雄				1906	高等官七等	舞鶴附	千葉	1932	舞野重工業舞鶴造船所	
	波多野 宗九郎				1906	高等官七等	舞鶴附	千葉	1932	舞野重工業舞鶴造船所	

今井造船・設計部長 (68年)

農業 (68年)

医薬品自営 (68年)

表2-8 海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	短	経	生年	最終階級	配属および役職	出身学校	卒業年次	51年勤務先	59・60・68年勤務先
海軍艦政本部造船監官 東京駐在	西村 孝平				1894	技術大佐	艦本造船監官、艦本監理官、監査官 (東京)	東大	1921	農業	農業
	藤田 精二				1901	技術大佐	艦本造船監官 (東京)	東大	1924		国際船舶協会横浜事務所
	斎藤 貫二郎				1898	高等官四等	艦本造船兵監官兼監理官 (浦賀、横浜)	東大	1926	日本鋼管本社	日本エンジニアリング嘱託
	立川 義治	○			1904	高等官四等	艦本造船監官 (東京)	技養	1922		
	関 博治				1898	高等官四等	艦本附兼造船監官 (東京)	九大	1932		
	米元 竹平				1904	高等官四等	艦本附兼造船監官 (東京)	技養	1922		
	新倉 岩次郎	○			1903	高等官六等	艦本附兼造船監官 (東京監理官)	物理学校	1927	新倉工業代表取締役社長	新倉工業代表取締役社長
	平本 謙一				1905	高等官六等	艦本附兼造船監官 (東京監理官)	技養	1930		
	熊倉 直平				1903	高等官七等	艦本附兼造船監官兼本造船兵監官 (東京、仙台)	技養	1927		農業 (68年)
	石原 伝蔵				1901	高等官七等	艦本附兼造船監官 (東京)	技養	1927		大正工業 (68年)
	塚田 一男				1907	高等官七等	艦本附兼造船監官 (東京)	技養	1932		没 (68年)
	関部 貫一				1901	高等官七等	艦本造船監官 (横浜)	工手学校	1925		
海軍艦政本部造船監官 浦賀駐在	関 耕作				1892	高等官四等	艦本附 (第四部) 兼造船監官	技養	1923		没 (68年)
	西谷 京一				1895	高等官六等	艦本附兼造船監官 (浦賀)	技養	1927		没 (68年)
	黒川 定吉				1893	高等官七等	艦本附兼造船監官、艦本造船兵監官 (東京、仙台)	技養	1922		没 (68年)
	石渡 貞蔵				1899	高等官七等	艦本附兼造船監官 (浦賀)	技養	1927		
	安成 直一				1903	技術大佐	艦本附 (第四部) 近畿、軍需監理官、海軍省出仕、呉艦出仕	東大	1926		木下商店機械部
	秋山 忠良				1902	技術大佐	艦本造船監官 (大阪監理官)	東大	1929		
	中川 勉	○			1915	技術少佐	艦本造船監官 (大阪)	東大	1939	船用鉄鋼協会	光洋製鋼取締役
	深永 正保	○			1918	技術大尉	艦本造船監官 (大阪)	阪大	1941	横河橋梁製作所設計課	横河橋梁製作所設計課
	片山 通次郎				1891	高等官三等	艦本附兼造船監官 (大阪)	技養	1922		日本海重工
	有家 信治				1895	高等官六等	艦本附兼造船監官、近畿監理官	技養	1924		
	草村 政次				1897	高等官六等	艦本附 (第四部) 艦本造船監官近畿監理官	技養	1924		大正工業・安芸津造船所 (68年)
	梶原 等				1898	高等官七等	艦本附兼造船監官 (大阪)	技養	1924		
	芝崎 留吉				1900	高等官七等	艦本附 (第四部) 艦本造船監官 (大阪)	技養	1931		アジア船舶工業社 (68年)
その他の大腕駐在	市川 四郎				1904	高等官七等	艦本附兼造船監官 (大阪)	技養	1932		奏機工業 (68年)
	岩堀 七郎				1911	高等官七等	艦本造船監官 (大阪)	技養	1934		没 (68年)
	波多野 清				1909	高等官七等	艦本造船監官 (大阪)	名高 (機)	1932		
	榊方 楠三郎				1895	技術少将	大阪工務部長兼大阪警備府附	東大	1934		日立造船板島工場造船課
	小和田 正巳	○			1919	技術大尉	大阪警備府附	阪大	1943		没 (68年)
	上羽 助太郎				1895	高等官四等	大阪警備府附	技養	1923	日立造船板島工場造船課	没 (68年)
	田中 吉信				1897	高等官七等	艦本附兼造船監官	技養	1929		大和設計所 (68年)

表2-9 海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	短	歴	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51 年勤務先	59・60・68 年勤務先
海軍艦政本部造船監督官 神戸駐在	松田 貞雄	○	○		1898	技術大佐	艦本出仕兼造船監督官兼艦本造船監督官(神戸)	東大	1937	本通工事会社(大坂)	防衛庁神戸駐在官事務所
	堀沢 岩雄	○	○		1916	技術少佐	艦本造船監督官(神戸)	東大	1940	佐野屋鉄工所有限会社総務	佐野屋鉄工所代表取締役社長(60年)
	太田 三喜男	○	○		1918	技術大尉	艦本造船監督官(長崎)	東大	1943	日立造船神奈川工場工務部	日立造船横浜工場造船課長
	高畑 正二				1908	高等官四等	艦本造船監督官(神戸)	東大	1932		
	川崎 薫				1907	高等官六等	艦本附兼造船監督官(神戸)	東大	1935		
	前野 郁男				1911	高等官六等	艦本附兼造船監督官(神戸)	広島高工	1932		
	原 信次郎				1898	高等官六等	艦本附兼造船監督官(神戸)	近畿高工	1927		
	加藤 祐				1902	高等官七等	艦本附(第四部)兼造船監督官(神戸)	技養	1928		
	新井 甚作				1904	高等官七等	艦本附兼造船監督官(神戸)	技養	1929		
	福田 喜六				1904	高等官七等	艦本附兼造船監督官(神戸)	技養	1928		
海軍艦政本部造船監督官 釜淵駐在	広瀬 保太郎				1905	高等官七等	艦本附兼造船監督官(神戸)	技養	1932		
	高橋 秀				1909	高等官七等	艦本附兼造船監督官(神戸)	技養	1933		
	石井 勝海	○	○		1917	技術大尉	艦本造船監督官兼艦本造船監督官(札幌)	阪大	1942	日立造船板島工場造船課	日立造船板島工場造船課長
	由利 健一	○	○		1919	技術大尉	艦本造船監督官(新潟)	東大	1943		
	鈴木 克浩	○	○		1920	技術大尉	艦本造船監督官(小樽)	横浜	1941		
	吉田 保雄				1905	高等官七等	艦本附兼造船監督官	技養	1929		
	野村 信夫				1912	高等官七等	艦本造船監督官(岡山)	九大	1936		
	花田 博太郎				1913	高等官七等	艦本造船監督官兼艦本造船監督官(岡山)	横浜	1934		
	岩下 正次郎				1912	技術少佐	兵衛造船部部員(広島監理官)	阪大	1935		
	佐立 正明				1915	技術少佐	艦本造船監督官(広島監理官)	東大	1941		
広島駐在	光勢 功	○	○			技術大尉	艦本造船監督官(広島)	京高工芸(国)	1935		
	関谷 徹	○	○		1919	技術大尉	艦本造船監督官(松山)	東大	1941		
	富岡 達夫	○	○		1921	技術大尉	艦本造船監督官(下関)	横浜	1941		
	斎藤 一郎				1921	技術大尉	艦本造船監督官(因島)	横浜	1941		
	田中 房雄				1920	高等官七等	艦本附兼造船監督官	技養	1929		
	河野 晶	○	○		1899	技術大佐	艦本造船監督官兼艦本造船監督官(海軍省出仕)	東大	1924		
	岡田 憲政				1911	技術少佐	艦本造船監督官兼艦本造船監督官(福岡監理官兼本官)	東大	1934		
	上村 英明	○	○		1918	技術大尉	艦本造船監督官(八幡)	九大	1941		
	土井 大隈	○	○		1919	技術大尉	艦本出仕(八幡)	阪大	1941		
	和田 稔	○	○		1917	技術大尉	艦本出仕(八幡)	東大	1943		
八幡駐在	新橋 虎一				1900	高等官七等	艦本附兼造船監督官(八幡)	東大	1928		
	佐藤 太郎				1911	高等官七等	艦本造船監督官(八幡)	技養	1934		
	木多 政徳				1899	技術大佐	艦本造船監督官(長崎監理官)	東大	1925		
	早瀬 亮	○	○		1914	技術大尉	艦本造船監督官(長崎)	物理学校	1936		
	高橋 正郎	○	○		1919	技術大尉	艦本造船監督官	東大	1943		
	坪川 琢				1899	高等官六等	艦本附兼造船監督官(長崎)	技養	1925		
	吉原 敬次				1903	高等官六等	艦本附兼造船監督官(長崎)	技養	1929		
	横倉 西太郎				1913	高等官七等	艦本造船監督官(長崎)	横浜	1934		
	高橋 正徳	○	○		1908	技術中佐	艦本造船監督官兼艦本造船監督官(名古屋)	九大	1933		
	和田 龍比古	○	○		1916	技術大尉	艦本造船監督官兼艦本造船監督官(名古屋)	東大	1941		
名古屋駐在	岡 純男				1919	技術大尉	艦本造船監督官兼艦本造船監督官(名古屋)	東大	1942		
	沢崎 真言				1921	技術大尉	艦本造船監督官兼艦本造船監督官(名古屋)	横浜	1941		
	金沢 半次				1895	高等官四等	艦本造船監督官	技養	1922		
	高橋 正徳				1902	高等官七等	艦本附兼造船監督官	技養	1928		
	福井 勝夫				1915	技術少佐	舞鶴出仕兼艦本造船監督官(富山)	東大	1938		
	川井 次郎	○	○		1918	技術大尉	舞鶴出仕兼艦本造船監督官(富山)	阪大	1941		
	安井 次郎	○	○		1921	技術大尉	艦本出仕造船監督官(新潟)	東大	1942		
	久保田 欽也	○	○		1919	技術大尉	艦本造船監督官(伏木)	横浜	1941		
	山下 龍雄	○	○		1920	技術大尉	艦本造船監督官(七尾)	東大	1943		
	富田 哲治郎	○	○		1921	技術大尉	艦本造船監督官(船川)	東大	1943		
台北駐在	石橋 為三				1899	高等官六等	艦本造船監督官(新潟)	技養	1924		
	山本 正敏	○	○		1902	技術大佐	艦本造船監督官兼高橋警備府附島監監督官	東大	1926		
	中佐 泰彦	○	○		1918	技術大尉	艦本造船監督官兼高橋警備府附島監監督官(台北)	阪大	1942		

表2-10 海軍造船官の戦後

区分	氏名	別	期	生年	最終階級	配置および役職	出身学校	卒業年次	51年勤務先	59・60・68年勤務先
海軍工務部 大森海軍工務部	丹羽 誠一	○	○	1913	技術少佐	大森工務部部員	東大	1938	南阿知特殊造船所	防衛庁技術研究所
	細本 隆一	○	○	1919	技術大尉	大森工務部部員 (占守分工場)	九大	1942	西日本重工工業造船所	三菱造船長崎造船所船殻工務部外業工場長
	内藤 和明	○	○	1921	技術中尉	大森工務部部員	九大	1944	技養	没 (68年)
	飯田 彦太郎	○	○	1902	高等官六等	大森工務部部員	大森工務部部員	1926	技養	没 (68年)
	岡野 一義	○	○	1911	高等官七等	大森工務部部員	大森工務部部員	1932	技養	没 (68年)
高雄海軍工務部	新田 研造	○	○	1901	高等官七等	大森工務部部員	大森工務部部員	1932	技養	没 (68年)
	増山 忠史	○	○	1912	技術少佐	高雄工務部部員 兼艦本造船部監督官北監理官	東大	1935	東大	呉造船所船殻設計課
	原田 章	○	○	1901	高等官七等	高雄工務部部員 (馬公分工場)	東大	1941	東大	呉造船所船殻設計課
	島崎 朝矩	○	○	1901	高等官七等	高雄工務部部員 (馬公分工場)	東大	1930	技養	林業造船
	中田 常次郎	○	○	1917	技術少佐	第一工務部部員	東大	1939	技養	林業造船
第一海軍工務部 (上瀬)	大矢 健郎	○	○	1914	技術大尉	第一工務部部員	東大	1941	技養	林業造船
	向角 一芳	○	○	1923	技術大尉	第一工務部部員	東大	1942	技養	没 (62年)
	渡部 源吉	○	○	1909	高等官七等	第一工務部部員	東大	1929	技養	没 (62年)
	梶田 邦夫	○	○	1917	技術中佐	第二工務部部員 兼艦本造船部監督官	東大	1933	技養	東日本重工工業船体造船所
	島居 忍	○	○	1904	高等官七等	第三工務部部員	東大	1941	技養	東日本重工工業船体造船所
第二海軍工務部 (香港)	龜田 若松	○	○	1916	技術大尉	第三工務部部員 兼艦本造船部監督官	東大	1931	技養	東日本重工工業船体造船所
	龍田 龍夫	○	○	1914	技術大尉	第四工務部部員 (造船科長)	東大	1941	技養	農業
	仁風 孝三	○	○	1918	技術少佐	第八工務部部員 (造船科長)	東大	1938	技養	京浜船包交通
	坂原 正夫	○	○	1914	技術大尉	第九工務部部員 兼艦本造船部監督官	東大	1923	技養	日本大学講師 (68年)
	笠間 正巳	○	○	1916	技術少佐	第一工務部部員 兼艦本造船部監督官	東大	1940	技養	津久見造船 (47年)
第三海軍工務部 (シンガポール)	村田 章	○	○	1916	技術少佐	第一工務部部員 (造船科作業主任)	東大	1940	技養	日本鋼管造船所企画課長
	筒井 (清木) 為雄	○	○	1918	技術大尉	第一工務部部員 兼艦本造船部監督官	東大	1941	技養	日本鋼管造船所企画課長
	渡辺 修治	○	○	1919	技術大尉	第一工務部部員 兼艦本造船部監督官	東大	1941	技養	防衛庁調達美濃部内戸駐在官事務所
	山下 昇	○	○	1920	技術大尉	第一工務部部員	東大	1941	技養	浦賀船渠浦賀工場 (62年)
	阿間 貞之	○	○	1907	高等官七等	第一工務部部員	東大	1931	技養	日本鋼管
第四海軍工務部 (スラバヤ)	三原 馨	○	○	1902	高等官七等	第一工務部部員	東大	1934	技養	深田サルベージ・技術室 (68年)
	前林 松藏	○	○	1907	高等官七等	第一工務部部員	東大	1934	技養	米基通 SRF 設計 (68年)
	中島 富士夫	○	○	1909	技術中佐	第二工務部部員 兼艦本造船部監督官	東大	1940	技養	米基通 SRF 設計 (68年)
	藤本 正三	○	○	1918	技術少佐	第二工務部部員 (サイゴ分工場工務主任)	東大	1940	技養	米基通 SRF 設計 (68年)
	大畑 政幸	○	○	1914	技術大尉	第二工務部部員	東大	1938	技養	NBC兵船課長
第五海軍工務部 (マニラ)	大畑 政幸	○	○	1916	技術大尉	第二工務部部員	東大	1938	技養	NBC兵船課長
	吉田 俊夫	○	○	1910	技術大尉	第二工務部部員	東大	1940	技養	川崎重工造船部部長 (60年)
	小島 政房	○	○	1915	技術大尉	第二工務部部員	東大	1940	技養	川崎重工造船部部長 (60年)
	佐藤 友行	○	○	1914	技術大尉	第二工務部部員 兼艦本造船部監督官兼南西方面艦隊民政府附第百二燃料廠造船部部員	東大	1938	技養	運輸省船舶技術管理官
	市川 泰	○	○	1918	技術大尉	造船部部員 (工務主任) 兼造船監督官、南西方面艦隊民政府附	東大	1941	技養	三菱造船長崎造船所
第六海軍工務部 (マニラ)	渡藤 春夫	○	○	1921	技術大尉	第二工務部部員 (造船科補給水工務主任)	東大	1941	技養	日本鋼管清水造船所修繕課長 (60年)
	恩田 嘉夫	○	○	1918	技術大尉	第二工務部部員 兼第百二燃料廠出仕	東大	1939	技養	日本鋼管清水造船所修繕課長 (60年)
	下野 謙見	○	○	1917	技術少佐	第三工務部部員 (造船科)	東大	1940	技養	石川島播磨重工業
	堀地 一郎	○	○	1915	技術大尉	第三工務部部員 (セブ分工場主任)	東大	1936	技養	旭海運
	金内 忠雄	○	○	1922	技術大尉	第三工務部部員	東大	1940	技養	浦賀船渠浦賀作業部
第七海軍工務部 (マニラ)	馬場 義一	○	○	1904	高等官七等	艦本造船部監督官 (泰山) 兼鎮海工務部部員	東大	1942	技養	NBC兵船課長
	山崎 正輔	○	○	1916	技術大尉	鎮海工務部部員 兼艦本造船部監督官	東大	1937	技養	浦賀船渠浦賀工場
	交野 四郎	○	○	1916	技術大尉	第一海軍造船所 合設海軍造船部監督官	東大	1941	技養	NBC兵船課長
	山崎 幸之祐	○	○	1917	技術大尉	第二海軍造船所 合設海軍造船部監督官	東大	1942	技養	三菱造船長崎造船所船殻設計課長
	大隅 幸之祐	○	○	1919	技術大尉	第三海軍造船所 合設海軍造船部監督官	東大	1944	技養	上野農業工業
海軍潜水学校教官	奥野 幸之祐	○	○	1919	技術大尉	潜水学校附教官、呉造船部部員兼潜水艦部部員	東大	1942	技養	三菱造船長崎造船所船殻設計課長
	大隅 幸之祐	○	○	1918	技術大尉	潜水学校附教官、呉造船部部員兼潜水艦部部員	東大	1942	技養	三菱造船長崎造船所船殻設計課長
	大隅 幸之祐	○	○	1918	技術大尉	潜水学校附教官、呉造船部部員兼潜水艦部部員	東大	1942	技養	三菱造船長崎造船所船殻設計課長
	大隅 幸之祐	○	○	1918	技術大尉	潜水学校附教官、呉造船部部員兼潜水艦部部員	東大	1942	技養	三菱造船長崎造船所船殻設計課長
	大隅 幸之祐	○	○	1918	技術大尉	潜水学校附教官、呉造船部部員兼潜水艦部部員	東大	1942	技養	三菱造船長崎造船所船殻設計課長
海軍兵学校教官	大隅 幸之祐	○	○	1918	技術大尉	潜水学校附教官、呉造船部部員兼潜水艦部部員	東大	1942	技養	三菱造船長崎造船所船殻設計課長
	大隅 幸之祐	○	○	1918	技術大尉	潜水学校附教官、呉造船部部員兼潜水艦部部員	東大	1942	技養	三菱造船長崎造船所船殻設計課長
	大隅 幸之祐	○	○	1918	技術大尉	潜水学校附教官、呉造船部部員兼潜水艦部部員	東大	1942	技養	三菱造船長崎造船所船殻設計課長
	大隅 幸之祐	○	○	1918	技術大尉	潜水学校附教官、呉造船部部員兼潜水艦部部員	東大	1942	技養	三菱造船長崎造船所船殻設計課長
	大隅 幸之祐	○	○	1918	技術大尉	潜水学校附教官、呉造船部部員兼潜水艦部部員	東大	1942	技養	三菱造船長崎造船所船殻設計課長
海軍航空本部	福田 烈	○	○	1893	技術中尉	艦本出仕	東大	1918	技養	日本工業経済連盟理事長
	三嶋 忠雄	○	○	1907	技術中佐	第二十一航空隊飛行機部部員	東大	1932	技養	深崎造船所工務次長
	細本 啓介	○	○	1909	技術少佐	高座工廠飛行機部部員 (組立整備工場長)	東大	1935	技養	三菱造船長崎造船所船殻設計課長
	宮井 英三	○	○	1888	高等官三等	第二十一航空隊兵器部部員	東大	1923	技養	三菱造船長崎造船所船殻設計課長
	風間 淳	○	○	1910	高等官五等	航空技術廠飛行機部部員 (山形出張所)	東大	1933	技養	三菱造船長崎造船所船殻設計課長
軍需省	高島 彬	○	○	1906	高等官五等	航空技術廠飛行機部部員 兼機務主任	東大	1931	技養	運輸省捕獲審判所係在委事務局
	富田 英彦	○	○	1898	技術大佐	軍需省軍需官	東大	1922	技養	運輸省捕獲審判所係在委事務局
	富田 英彦	○	○	1907	技術大佐	軍需省軍需官	東大	1931	技養	運輸省捕獲審判所係在委事務局
	大隅 幸之祐	○	○	1918	技術大尉	軍需省軍需官	東大	1931	技養	運輸省捕獲審判所係在委事務局
	大隅 幸之祐	○	○	1918	技術大尉	軍需省軍需官	東大	1931	技養	運輸省捕獲審判所係在委事務局
海軍省	大隅 幸之祐	○	○	1918	技術大尉	軍需省軍需官	東大	1931	技養	運輸省捕獲審判所係在委事務局
	大隅 幸之祐	○	○	1918	技術大尉	軍需省軍需官	東大	1931	技養	運輸省捕獲審判所係在委事務局
	大隅 幸之祐	○	○	1918	技術大尉	軍需省軍需官	東大	1931	技養	運輸省捕獲審判所係在委事務局
	大隅 幸之祐	○	○	1918	技術大尉	軍需省軍需官	東大	1931	技養	運輸省捕獲審判所係在委事務局
	大隅 幸之祐	○	○	1918	技術大尉	軍需省軍需官	東大	1931	技養	運輸省捕獲審判所係在委事務局

表3-1 戦後における元造船官の経歴

氏名	生年	出身学校	卒業年	短現	転官	離任	戦後の経歴
赤崎 繁	1898	東大	1922			○	1942年 大阪大学教授, 46年 同退職(公職追放, 51年まで), 49年 母港接(株)取締役社長, 50年 東洋電機工業(株)取締役 52年 大阪府立大学教授, 57年 同学部長, 60年 同学長, 66年 長崎造船大学教授
青戸 帰一	1915	阪大	1940	○		○	終戦前離任, 1945年 浦賀船渠船渠課長, 61年 浦賀重工浦賀造船所副所長, 70年 東北造船常務取締役
安藤 貞之	1919	横浜高工	1941	○			1945年 三菱重工業長崎造船所, 復員と同時に復職, 46年 三菱造船船渠造船所, 75年 三菱重工業本社, 78年 三菱重工工事
阿間 眞之	1920	横浜高工	1941	○		○	1946年 日本鋼管浅野船渠, 65年 日本鋼管工事・技術部管理課長, 70年 日本鋼管, 75年 日本鋼管工事
飯河 晶	1899	東大	1924				84年 三和国際特許事務所, 86年 木村佐々木国際特許事務所
岩崎 正英	1899	東大	1924				三井造船顧問(年次不祥)
井上 淳一	1915	横浜高工	1936			○	1947年 延岡造船所, 48年 細島造船所, 50年 石川島重工業, 58年 日本技術協力, 60年 石川島播磨重工業
生田 実	1916	横浜高工	1938			○	65年 大浜鉄工所顧問
市川 泰	1918	東大	1941	○		○	1945年 石川島重工業, 47年 光組代表取締役社長, 48年 光工業(社名変更)代表取締役社長, 66年 日本中型造船工業会理事
池内 通彦	1920	東大	1942				1945年 米海軍 横須賀基地, 47年 三菱重工業長崎造船所, 復員・復職, 65年 同船渠工作部長, 72年 同横浜造船所副所長, 74年 同長崎造船所長
石井 勝海	1917	阪大	1942	○			1946年 三星重工業造船技術顧問, 89年 香港 パレス スティームシップ主席監督
岩崎 三郎	1920	阪大	1943				1945年 日立造船校島工場, 復員と同時に復職, 58年 同造船課長, 60年 同修繕課長, 66年 同築港工場修繕部長
井本 武	1921	九大	1943				67年 尾道造船出向, 82年 宣場工業 転籍
石橋 碩三	1922	横浜高工	1942	○			1945年 日立造船設計部造船設計課復員と同時に復職, 71年 同取締役役工場長, 78年 同常務取締役海洋事業本部長
石田 政雄	1924	横浜高工	1944				81年 日立造船エンジニアリング代表取締役社長
内田 勇	1913	東大	1936				1945年 三菱重工業横浜造船所, 復員と同時に復職, 46年 林兼造船下関造船所, 64年 同取締役, 68年 同長崎造船所工務部長
浮田 基信	1917	東大	1941				77年 関門製作所(下関市)代表取締役
遠藤 春夫	1921	横浜高工	1941				1945年 大島工業入社, 46年 文化興業専務取締役, 86年 同代表取締役社長
小野塚 一郎	1911	東大	1935				1951年 北越工業入社, 55年 同取締役工場次長, 63年 同工場長, 75年 同代表取締役社長, 95年 新潟工科大学理事
緒明 亮作	1915	東大	1937				1945年 三井造船, 復員と同時に復職, 52年 同本店海務部造船課長, 61年 三井船舶造船研究所室長, 63年 明治海運常務取締役
岡部 利正	1915	九大	1938	○			64年 同代表取締役社長, 68年 経済同友会幹事, 72年 日本海運集会所理事, 79年 神戸商工会議所副会頭
大藪 政幸	1914	九大	1938	○			1946年 日本造船富士見工場, 49年 日本鋼管鶴見工場, 61年 同清水造船所, 64年 同本社船舶部船舶管理部長, 70年 同技術研究部長, 72年 日本船舶機器開発協会, 78年 海洋科学技術センター
小倉 龍朗	1916	九大	1939				1946年 日本鋼管浅野船渠, 60年 同清水造船所修繕課長, 65年 同造船部船舶係部長兼修繕船舶部長, 73年 同鶴見造船所
岡上 敏雄	1919	横浜高工	1940	○			浅野船渠担当所長, 77年 東北造船取締役, 79年 同常務取締役, 81年 日本鋼管本社海外プロジェクト部長
岡本 章輝	1915	東大	1941				1946年 日本鋼管工業出向(常務取締役), 65年 日立造船東京事務所, 56年 同船舶輸出部長, 57年 同ロンドン事務所長, 60年 同調査部長
大賀 秀輝	1919	九大	1941				62年 飯野重工工業出向(常務取締役), 65年 日立造船取締役(神奈川工場長), 67年 同取締役, 71年 同取締役副社長
大橋 恵二郎	1919	東大	1941	○			1946年 日本鋼管清水造船所, 49年 国際船舶工務所設計課長, 53年 国際船舶設計協会参事, 54年 横浜国立大学工学部講師
大谷 栄一	1918	九大	1942	○			57年 防衛庁海上自衛隊技術部艦船課, 60年 同技術本部副技術開発官, 69年 海将, 70年 日本鋼管参事
○岡山 興隆	1922	東大	1943	○			1945年 三菱重工業長崎造船所造船設計部, 53年 同船渠設計課長, 61年 同造船設計部長, 66年 同長崎造船所技師長
小野 栄八郎	1919	阪大	1943	○			75年 同常務顧問(長崎総合科学大学教授)
太田 三喜男	1918	東大	1943	○			1947年 同播磨造船所呉船渠(解体主任), 51年 NBC呉造船部(船渠課長, 後技術部長), 62年 呉造船所取締役, 64年 同陸上副事業部長
							兼新宮工場長, 67年 臼杵鎮工所常務取締役
							1945年 熊本造船, 51年 RIデルバン(本造船検査監督), 54年 海上自衛隊(後海将, 海幕技術部長), 74年 日本電池顧問
							77年 艦船防衛サービス, 83年 同代表取締役社長, 90年 海軍造船会長
							1945年 日立造船因島工場(40年造船課入社), 64年 舞鶴重工業出向, 65年 日立造船船舶事業部長付, 67年 尾道造船出向
							呉造船所設計部長, 同ロンドン事業所長, エッソ監督官
							1948年 佐世保造船工業(福岡分工場主任), 55年 同佐世保造船所外業部艦渠課長, 62年 同造船部長, 66年 佐世保重工業
							取締役, 74年 同常務取締役, 76年 同佐世保造船所長, 79年 大賀事務所代表取締役
							1945年 三菱重工業長崎造船所復職(船渠設計)
							1945年 津山重工業技術課長, 49年 運輸省船舶検査官, 52年 海上保安庁6管区本部船舶技術課, 61年 同7管区本部船舶技術部長
							70年 藤田鉄工所常務取締役, 79年 神戸船舶工業会副会長
							1946年 播磨造船所呉船渠, 復員と同時に復職, 52年NBC呉造船部, 61年 呉造船所, 66年 同新宮工場長, 69年 富士安浦製作所社長
							73年 富士機械工業専務取締役, 76年 呉造船製作所社長
							1946年 九大医学部入学
							1945年 日立造船神奈川工場, 復員と同時に復職, 58年 同築港工場造船課長, 66年 同因島工場修繕部長, 68年 同副工場長
							72年 同有明工場副工場長, 73年 同取締役(有明工場長)

[出所] 桜井清彦編「造船官の記録 戦後編」海軍造船会, 2000年, 483-554頁。

- (注) (1) 「転官」は文官または短期現役士官から永久服役士官への転官, 「離任」は終戦前離任。
(2) 氏名の前の○印は表2-1~表2-10に表掲されていないことを示す。
(3) 氏名の前の◎は海軍技師を表す。

表3-2 戦後における元造船官の経歴

氏名	生年	出身学校	卒業年	短現	転官	離任	戦後の経歴
小澤 雅男	1921	横浜高工	1942				1945年 三保造船所, 49年 石川島重工業, 56年 同本社管理部船舶予算課長, 63年 石川島播磨重工業船舶事業部管理部次長 79年 石川島興業造船所不働産事業部長, 81年 同常務取締役, 88年 日本営繕建設取締役
岡田 一喜	1923	横浜高工	1943				1946年 南国特殊造船 53年 日立造船神奈川工場造船課, 67年 同新船課長, 68年 同同島工場塗装課長, 77年 日立造船非破壊検査出向
加藤 恭亮	1899	東大	1923				佐世保船舶工業顧問, 日本瓦斯化学工業顧問
河東 克己	1911	東大	1935				1945年 川南工業香焼島造船所, 49年 国際船舶工務所出向, 50年 播磨重工業船舶修理廠スベシヤル・コンサルタント, 52年 佐世保船舶工業本社艦艇課長, 55年 函館ドック函館造船所設計部長, 同本社技術部長, 66年 東海大学海洋学部船舶工学科教教授
笠間 正巳	1916	九大	1940				1946年 復員 (ベナンより), 47年 津久見造船
神田 好雄	1916	東大	1941				1946年 播磨造船所, 50年 NBC呉造船部, 63年 石川島播磨重工業呉工場長, 73年 岩国製作所社長
金子 一夫	1920	東大	1941	○			1945年 三菱造船業神戸造船所, 復員と同時に復職, 59年 同艦艇艦艇課長 (初代), 74年 同副所長, 76年 同下関造船所長
川井 源司	1918	阪大	1941	○			1945年 同造船校島工場 復員と同時に復職, 53年 同管理課長, 60年 同副所長, 61年 同堺工場建設本部造船建設課長 69年 同開発事業本部海洋開発部長, 71年 同同島工場長, 75年 同陸機事業本部陸機設計所長
加藤 孝一	1918	東大	1941	○			1945年 浦賀船渠, 復員と同時に復職, 艦装工場, 管理, 営業畑を歩む。68年 住友重機械工業取締役, 92年 マレーシア造船所設立に参加
川上 寿夫	1920	阪大	1942				1945年 播磨造船所, 48年 川崎重工神戸工場, 66年 同ニューヨーク事務所, 69年 同船舶営業本部, 70年 同開発本部海外事業部, 78年 Philippine Shipyard & Engineering, 84年 川重商事, 87年 重松製作所貿易部
片山 信	1918	東大	1942				1945年 広瀬サルベージ, 46年 横浜工作所, 48年 藤永田造船所, 65年 同基本設計部長, 70年 三井造船船舶事業部管理部長 73年 同基本設計本部長, 77年 同技監, 84年 アジアベンチャー工務部長, 87年 ベガサス インターナショナル社長
金内 忠雄	1922	横浜高工	1941	○			1946年 播磨造船所呉船渠, 復員と同時に復職, 52年 NBC呉造船部, 62年 呉造船所, 65年 呉造船所造船工場長, 68年 石川島播磨重工業呉第一工場長, 74年 同取締役船舶事業本部副本部長, 83年 石川島造船化工機代表取締役社長
甲斐 敬二	1917	東大	1941	○			1945年 三菱重工業神戸造船所, 復員と同時に復職, 83年 同取締役副社長
川島 和茂	1922	横浜高工	1942	○			1945年 大島鉄工所, 46年 文化興業, 55年 同工事部次長, 67年 取締役
川原 隆	1922	東大	1944		○		1945年 川南工業, 51年 日本郵船, 77年 名村造船
甲木 利男	1925	横浜高工	1944				1945年 川南工業, 49年 長崎工業高等学校教諭, 85年 同講師
木下 昌雄	1914	東大	1937		○		1945年 東京大学工学部船舶工学科助教 (40年予備役造船大尉), 46年 鉄道技術研究所, 49年 日立造船技術研究所, 59年 同技術研究所長, 64年 同取締役, 67年 同常務取締役社長, 73年 同取締役副社長, 79年 同取締役社長
北村 源三	1917	九大	1940				1945年 播磨造船所相生工場, 46年 同呉船渠救難解体課教諭主任, 48年 同造船課課長, 50年 NBC呉造船部企画課長, 54年 協成汽船取締役会長
木下 共武	1917	九大	1941				1945年 鉄道技術研究所, 48年 佐世保船舶工業, 59年 同佐世保造船所造船部長, 64年 同取締役副所長, 66年 常務取締役 所長, 74年 専務取締役, 76年 代表取締役・専務取締役
菊池 一郎	1915	横浜高工	1936		○		1945年 播磨造船所, 49年 浦賀船渠, 50年 同浦賀作業部 (柳須賀米海軍基地) 主任, 53年 同溶接課長, 58年 同横浜工場長
北村 修	1921	東大	1943				1945年 播磨造船所, 47年 オリオン商会設立, 56年 北村修国際特許事務所開設, 83年 発明振興協会理事
木村 弘	1924	大阪工専	1944	○			1945年 三保造船所, 71年 同工作部長, 75年 同東京事務所長, 79年 同取締役, 85年 同常務取締役
藏田 雅彦	1913	阪大	1936				1945年 東日本造船 (北海道江差町), 48年 室蘭造船所, 51年 函館ドック (設計課)
倉敷 肇	1918	横浜高工	1939	○			1945年 三井造船玉野造船所造船工作課 (42年復職), 59年 同造船工作部検査課長, 62年 同鉄構部長, 65年 同本社橋梁鉄構部長, 70年 同鉄構運搬機事業部長
久保 正造	1921	横浜高工	1941	○			1945年 運輸省鉄道総局船舶課長, 50年 石川島重工業造船部, 61年 石川島播磨重工業産業機械事業本部
黒沢 千利	1922	横浜高工	1942	○			1948年 石川島重工業 69年 石川島播磨重工業船舶事業部第一生産管理部長, 76年 アイ・エチ・アイ・クラフト代表取締役社長, 81年 韓国大宇造船工業技術顧問, 83年 リクルート人材センターコンサルタント
○桑山 則男	1920	東大	1944				1946年 高知造船船渠課長, 49年 海上保安庁, 52年 運輸省船舶局船舶検査官, 62年 九州海運局長崎支局長, 64年 科学技術庁航空宇宙課長, 66年 住友金属工業大阪本社技術部, 74年 同東京技術部長, 77年 住友溶接工業専務取締役
黒田 良治	1924	横浜高工	1943				1946年 造船木工工業勤務, 51年 同自営, 56年 運輸省, 62年 東洋建設船舶機械部
小岩 健	1899	東大	1924	○			1945年 山田工場 (横浜), 51年 横浜工作所, 59年 運輸省第二港湾建設局横浜工場
近藤 忠夫	1904	東大	1930				興造船所, 設計担当役員
小見川 信	1910	東大	1933		○		1949年 みさき産業設立, 代表取締役社長
小平 清秀	1916	阪大	1940				不明
小林 勝二	1916	東大	1941				1945年 日本鋼管船見造船所, 64年 同清水造船所, 66年 日本鋼管工事
小宮山 隆三	1918	横浜高工	1940				1946年 長野県警察部嘱託 (通訳事務), 新潟医科大学入学, 50年 長野赤十字病院, 51年 慶應義塾大学医学部助手, 54年 日本赤十字社, 55年 都立大久保病院産婦人科, 57年 長野県小県郡長門町立病院産婦人科医長, 60年 秋山市中央病院副院長

表3-3 戦後における元造船官の経歴

氏名	生年	出身学校	卒業年	短現	転官	離任	戦後の経歴
甲佐 泰彦	1918	阪大	1942	○			1946年 日立造船因島工場、復員後復職、64年 同向島工場工務部長、65年 舞鶴重工業出向、69年 日立造船理事 72年 同因島工場長、73年 取締役(佐島工場長)、77年 同常務取締役部長、78年 内海造船取締役社長
小谷 淳	1921	東大	1944	○			1945年 日本鋼管鶴見造船所造船部長、72年 同重工本部バイオペル部長、76年 取締役、80年 技監
小林 三郎	1924	横浜高工	1944	○			1946年 舞鶴重工業、66年 同艦艇設計課長、71年 日立造船舞鶴工場艦艇設計課長、同造船部副部長、76年 同船舶事業本部艦艇兵器営業部長
桜井 清彦	1918	東大	1940				1945年 石川島重工業、57年 同造船部長、61年 同船舶事業部管理部長、63年 ジュロネ造船所取締役社長、 71年 ジュロネ・エンジニアリング取締役社長、80年 帰国、石川島造船化工機取締役社長、96年 (海軍) 造船会会長
崎田 高定	1916	九大	1940				1945年 在佐保海軍工廠残務処理、47年 山形造船(50年まで)、55年 海上自衛隊(三等海佐)、74年 マサノノ機器製作所
沢田 俊光	1918	東大	1943				1945年 日本鋼管鶴見造船所造船部長、55年 同機装部造船機装課長、57年 同本社造船営業部技術調査課長、59年 同プラント部長、63年 同鶴見造船所技術管理部長、66年 在佐保重工業本社技術部長(出向)、68年 日本鋼管鶴見造船所副所長、72年 函館ドック常務取締役(出向)、79年 函館ドック建設取締役社長
佐藤 壮次	1922	横浜高工	1942	○		○	1945年 播磨造船所(42年入社、44年短現より復職)、74年 石川島播磨重工業船舶事業部船舶修理営業室長、 81年 アイ・エイチ・アイ・マリナー常務取締役
坂本 良一	1924	横浜高工	1943	○			1947年 東洋電機工業、58年 ヨーロッパ専務取締役 81年 同常務取締役、87年 八幡海運株式会社 81年 同常務取締役、87年 八幡海運株式会社
塩山 策一	1901	東大	1925				1946年 飯野海運産業、62年 飯野重工業常務取締役退任、70年 三保造船所退社、その他三菱重工業本社船舶事業本部嘱託、東海大学海洋工学部造船科講師
○篠田米三郎	1912	東大	1936				1947年 名機製作所、72年 篠田国際特許事務所所長
下野 誠児	1917	東大	1940				1947年 海運、64年 同海務部長、工務部長、70年 取締役、72年 常務取締役
塩沢 岩根	1916	東大	1940				1945年 在野屋組鉄工部(工場長)、47年 在野屋鉄工所専務取締役、60年 同代表取締役社長
清水 澄	1919	東大	1941				1945年 日本鋼管、65年 同鶴見造船所副所長、69年 同津造船所所長、72年 同取締役船舶本部船舶部長、 76年 同常務取締役造船事業部副事業部長、77年 同鶴見造船所所長、80年 横浜ヨット代表取締役社長
清水 龍男	1916	阪大	1941				1945年 小柳造船所、46年 日本造船、48年 東造船、58年 大洋漁業船舶部、65年 同船舶部長、68年 佐世保重工業取締役、 81年 谷特許事務所
下川 栄一	1920	東大	1942				1945年 鉄道技術研究所、48年 川崎重工業
篠田 仁吉	1921	東大	1943				1945年 鉄道技術研究所嘱託、56年 同造船船研究室、72年 日本大学生産工学部教授
進藤 洋三	1922	横浜高工	1942	○		○	1946年 明泰工業、48年 在佐保船舶工業、同ニューヨーク事務所、同資材部長
白谷 太平	1921	東大	1944				1945年 名古屋造船、54年 同造船部船殻課長、61年 同造船部長、63年 同修繕機装部長、64年 石川島播磨重工業名古屋造船所修繕機装部長、68年 同運転調整部長、79年 同名古屋造船所所長、79年 東海ドレジャー代表取締役
島田 博之	1922	九大	1944	○			1945年 三菱重工業、復員と同時に復職、61年 同長崎造船所造船設計部艦艇設計課長、71年 同第二造船設計部長、 72年 同造船管理部長、75年 同技師長、78年 熊本工業大学教授
◎白井 実	1910	横浜高工	1933				1945年 日立造船神奈川工場(舟艇課長)、64年 白井国際産業
鈴木 春夫	1917	阪大	1941	○			1945年 石川島重工業、46年 造船機装工場課長、明泰工業、48年 明泰工業業札幌出張所資材課長、49年 南国特殊造船王子工場、 53年 日立造船神奈川工場(舟艇課長)、64年 白井国際産業
須藤 彰一	1922	横浜高工	1943	○			1945年 電波局航空保安部、46年 海運総局船舶局造船課、57年 防衛庁装備局船舶課長、61年 運輸省船舶局原子力船管理官、 62年 同造船課長、64年 海上保安庁第二管区海上保安本部部長、67年 科学技術庁科学審議官、70年 宇宙開発事業団理事、 77年 同副理事長、81年 三菱電機顧問
関 雄次郎	1912	東大	1938	○		○	1950年 日立造船技術研究所、67年 同第二研究室専門課長、71年 明石船型研究所出向、76年 転籍
関根 通男	1924	横浜高工	1944	○			1947年 大洋漁業、63年 同取締役船舶部長、64年 大洋商船常務取締役、75年 ローレル社副社長
玉崎 坦	1899	東大	1925				1945年 日本鋼管鶴見造船所
橘 弘毅	1914	東大	1938				1947年 山崎鉄工、48年 文化興業、50年 名古屋造船常務取締役、52年 太平洋開発、53年 日本鋼管嘱託、 62年 日本技術協力南ベトナム派遣技術顧問団副団長、64年 東京理科大学講師、65年 マレーシア国サラワク州海運局
田中 輝男	1913	東大	1939				1945年 同Technical Representative 79年 同Technical Representative
竹内 晃	1918	東大	1941				1946年 播磨造船所、52年 N B C呉造船部(船殻課長、業務部長)、62年 呉造船取締役、68年 石川島播磨重工業理事、 72年 海洋海運代表取締役
高柳 武男	1919	東大	1941	○			1945年 日本鋼管鶴見造船所、46年 同溶接係長、59年 同技術管理課長、64年 同管理部長、67年 同副所長、72年 同津造船所所長、 78年 同専務取締役(造船事業部長)、同代表取締役副社長
但馬 利夫	1918	横浜高工	1940				1945年 三井造船玉野造船所、復員と同時に復職、57年 同造船設計部船舶設計課長、59年 同機装設計課長、62年 同船舶設計部長 65年 同本社船舶基本設計部長、74年 同取締役千歳造船所所長、88年 日本海軍工業代表取締役社長、88年 船舶技術協会代表取締役 1945年 石川島重工業、46年 明泰工業(資材課長)、49年 東日本重工業、62年 三菱日本重工業横浜造船所検査課長、 68年 三菱重工業横浜造船所船体機装工場長、68年 同本社船舶事業部主務、75年 日本高圧力技術協会事務局長

表3-4 戦後における元造船官の経歴

氏名	生年	出身学校	卒業年	短現	転官	離任	戦後の経歴
○高田 健	1918	東大	1943				1948年 海運総局船舶局賠償課、50年 海上保安庁第三管区海上保安本部、52年 運輸省船舶局船舶検査官室、62年 同原子力船舶管理官、65年 海上保安庁船舶技術部技術課長、70年 日本造船研究協会常務理事研究部長、74年 日本小型船舶検査機構理事
垂水 保之	1920	東大	1943				1946年 南國特殊造船、50年 東日本工業横浜造船所、72年 三菱重工横浜造船所船舶業務部長、74年 同企画部長、75年 同副所長、77年 三菱重工千代田タンクエンジニアリング代表取締役社長
田代 雄二郎	1921	阪大	1943	○			1946年 日本鋼管造船部門、63年 同英国駐在(70年まで)、75年 同英国駐在(79年まで)、79年 函館ドック取締役副社長、82年 同代表取締役社長
高橋 正郎	1919	東大	1943				1945年 三井造船玉野造船所、67年 同千葉造船所造船工場長代理、68年 日本海重工工業船舶事業部取締役工務部長、74年 同常務取締役、81年 日海システムエンジニアリング取締役副社長、83年 同取締役社長
田中 章	1921	阪大	1943	○			1945年 三菱重工神戸造船所、復員と同時に復職、71年 同船舶営業部船舶サービス主管
高木 敬太郎	1923	横浜高工	1942	○	○		1945年 三井造船玉野造船所、復員と同時に復職、50年 同造船設計部基本設計課第一計画主任、53年 同造船設計部艦艇基本設計課長、60年 石川島播磨重工業技術本部開発部開発3課長、64年 同技術本部開発部長、65年 同船舶事業本部原子力船舶部長、70年 同化工機事業部原子力プラント部長、81年 石川島プラント建設取締役原子力プラント室長
瀧澤 宗人	1922	横浜高工	1942	○			1945年 三井造船玉野工場、復員と同時に復職、72年 同千葉造船工場長、74年 同玉野鉄構海洋工場長、79年 同千葉事業所長、80年 同取締役、82年 常務取締役
竹下 宗夫	1923	東大	1944	○			1945年 三菱重工長崎造船所、復員と同時に復職、67年 三菱造船下関造船所造船部長、74年 新山本造船所出向、79年 下関三菱エンジニアリング代表取締役、84年 長崎総合科学大学非常勤講師
田中 利夫	1923	大阪工専	1944				1946年 大阪大学工学部機械工学科入学、49年 日立造船
谷本 喜一	1924	大阪工専	1944	○			1949年 京都大学理学部卒業、55年 同工学部土木工学科講師、57年 神戸大学工学部助教授
長 徳重	1898	技養	1922				1945年 日本鋼管鶴見造船所、48年 同本社、56年 同浅野船渠、59年 日本エンジニアリング福祉
立川 義治	1917	九大	1941				1945年 小堀製作所、50年 同代表取締役社長、77年 工業連合福岡県鉄構工業会理事
鶴田 龍夫	1916	東大	1941				1946年 復員、農業、51年 石川島重工、60年 同艦艇建造部長、67年 同第2工場副工場長、69年 照国海運取締役工務部長、76年 中国塗料取締役
筒井 為雄	1918	阪大	1941				1948年 各社造船、53年 保安庁海上警備隊、55年 防衛庁技術研究所、66年 同技術研究本部技術開発官付船舶第3設計班長、71年 同調査実施本部神戸駐在官事務所長、72年 同技術研究本部副技術開発官(船舶担当)
寺田 明	1911	東大	1935				1945年 日本土木造船造船課長、47年 船石工所、51年 R・J・デルバン、52年 保安庁第2戦術艦艇技術部、60年 新三菱重工神戸造船所所長付、70年 三菱重工本社技術部顧問、79年 寺田船舶コンサルタント事務所
遠山 光一	1908	東大	1932				1945年 日本鋼管鶴見造船所造船設計部、59年 同取締役、61年 同鶴見造船所所長、62年 常務取締役、66年 同造船本部長、67年 同専務取締役、68年 同副社長
遠山 嘉雄	1911	東大	1934		○		1945年 第2復員省、46年 藤永田造船所企画課長、50年 同東京事務所付、61年 同本社営業部長、67年 三井造船
富 敦治	1914	阪大	1938	○			1945年 三菱重工神戸造船所(38年入社、第1期短現)、53年 新三菱重工神戸造船所企画課長、61年 同船舶営業部長、69年 三菱重工神戸造船所副所長、72年 同下関造船所所長、73年 同取締役神戸造船所所長、74年 笠戸船渠専務取締役、79年 同取締役社長
○徳永陽一郎	1919	九大	1942	○			1945年 川南工業香焼島造船所造船設計課、48年 同整備工場長代理、50年 海上保安庁船舶技術部造船課基本計画班
富岡 達夫	1921	横浜高工	1941				68年 同船舶技術部技術課、71年 同第八管区海上保安本部長、73年 海上保安庁船舶技術部長、76年 日本造船学会事務局長
富田 哲治郎	1921	東大	1943	○			1946年 日本造船、49年 昭和造船車輻造船部、54年 横浜ヨット、82年 千代田クラビヤ、82年 東部工業設立、代表取締役
中村 常雄	1910	東大	1934				1945年 三井造船、復員と同時に復職、船舶基本設計、ホーバークラフト、高速艇の開発、取締役、81年 四国ドック顧問、86年 ミカド企画代表取締役
中島 宣彦	1915	東大	1938				1945年 横須賀駐在米軍Fleet Activities, Public Works、47年 佐世保船舶工業、57年 同取締役、60年 同常務取締役、66年 同専務取締役、72年 佐世保重工工業取締役社長
中田 富次郎	1914	東大	1939	○			1948年 弁理士登録
中川 勉	1915	東大	1939	○			1946年 林兼造船、77年 同代表取締役副社長
中瀬 大	1917	東大	1940	○	○		1947年 船用鉄鋼協会専務理事、54年 大洋鋼業設立、取締役社長、55年 光洋製鉄取締役(兼務)
永井 一夫	1916	東大	1941	○			1945年 三菱重工長崎造船所(42年短現より復職)、51年 西日本重工工業下関造船所、54年 三菱造船長崎造船所、63年 同長崎造船所艦艇設計部長、66年 同造船設計部長、72年 三菱重工横浜造船所技術師長、75年 三菱造船所専務取締役
中原 敬介	1918	東大	1942				1945年 三井造船(41年短現より復職)、66年 取締役千葉造船所所長、69年 同玉野造船所所長、74年 同常務取締役、79年 三井造船エンジニアリング取締役社長
							1945年 播磨造船所、46年 同呉船渠設備係、52年 NBC呉造船部技術部接課長、57年 同技術部次長、68年 石川島播磨重工工業船舶事業部技術開発部長、73年 富士機械工業安浦工場長

表3-5 戦後における元造船官の経歴

氏名	生年	出身学校	卒業年	短現	転官	離任	戦後の経歴
中村 貴憲	1920	東大	1942	○			1945年 三菱重工神戸造船所、復員と同時に復職、67年 新三菱重工神戸造船所造船設計部長、73年 三菱重工神戸造船所技師長、77年 横浜国立大学工学部造船工学科教授
中山 嘉彦	1917	横浜高工	1941	○			1945年 ミナト製作所企画課長、50年 同取締役工場長、55年 ヘルス自動車取締役製造部長、60年 京葉商工設立、代表取締役
仲佐 洋三	1921	東大	1943				1946年 旭造船勝浦造船所、48年 東北船渠、50年 東日本重工工業機浜造船所、70年 三菱重工工業広島造船所、78年 海洋鉄工協会
中西 哲一郎	1921	東大	1943				1945年 岩手県重政部通訳、47年 G H Q天然資源局技術顧問、49年 日立造船、52年 同外国船営業部、54年 同外国工場検査課、56年 同原子力調査室、62年 同原子力課長、80年 インターナショナル・マリナー・コンサルタンツ設立、代表取締役社長
中井 孝	1918	東大	1944				1945年 日本鋼管鶴見造船所、49年 同本社営業部第一課、52年 同鶴見造船所溶接係長、61年 同本社船舶営業部外国船課長、船舶部外国船営業部長、船舶部部長、73年 昭和航海運常務取締役、79年 昭和ライン・エンジニアリング取締役社長（兼任）
中村 幹雄	1921	東大	1944				1946年 日本鋼管鶴見造船所、56年 同清水造船所、62年 日本鋼管工事橋梁部、76年 東北造船、82年 日本鋼管プロジェクト部
中神 凡夫	1924	大阪工専	1944				1948年 北海道小樽水産高等学校、66年 北海道高等学校教職員組合中央執行委員長、70年 同中央執行委員長、85年 北海道高等学校教職員センター付属教育研究所所長
○庭田 高三	1889	東大	1915				1947年 瀬戸内造船創設、玉野工務所創設
西田 正典	1912	九大	1937				1949年 日立造船岡山工場造船課、60年 同工務部長、64年 同岡山工場長、67年 同取締役陸機事業本部プラント事業部長、69年 同取締役建設計画室長、76年 近畿造船協議会専務理事
丹羽 誠一	1913	東大	1938	○			1946年 同特殊造船、53年 防衛庁海上自衛隊、66年 同技術研究本部技術開発官付主任研究官、70年 舟艇協会常務理事
仁瓶 廉三	1918	東大	1941		○		1947年 日共組、京浜欄包交通専務取締役、54年 川崎重工、59年 同潜水艦部船舶設計課長、63年 同潜水艦部長、68年 同船舶事業本部副事業部長、71年 同専務取締役、80年 同取締役副社長
新倉 岩次郎	1903	技養	1927				1950年 新倉工業創立、代表取締役社長、66年 日本船用工業会理事、71年 福島新倉工業代表取締役社長
根本 広太郎	1923	東大	1944	○			1945年 播磨造船所、復員と同時に復職（44年入社）、70年 石川島播磨重工業取締役、74年 同常務取締役船舶事業本部長、81年 同取締役副社長
畑 敏男	1895	東大	1920		○		1946年 ボルネオより帰国、55年 宝工業社設立、57年 海底資源開発
馬場 清一郎	1909	九大	1933				1946年 明泰工業、49年 日立造船因島工場造船部、53年 同神奈川工場造船課長、60年 同管理課長
埴田 清勝	1912	東大	1935				1948年 日本鋼管、60年 同鶴見造船所副所長、61年 同造船営業部長、64年 船舶部長（取締役）、67年 同常務取締役、70年 船舶部長（専務取締役）、73年 同代表取締役副社長（造船事業部長）
橋本 啓介	1909	東大	1935		○		1948年 SRF（横須賀米海軍基地艦船修理部）、60年 飯野重工、62年 関東学院大学工学部教授
○東野 和夫	1916	東大	1938				1946年 鉄道技術研究所嘱託、49年 藤永田造船、63年 同取締役、67年 三井造船取締役藤永田造船所所長
橋本 香一	1919	東大	1941		○		1945年 鉄道技術研究所、55年 国鉄宇高船舶管理部次長、62年 同青函船舶管理部部長、66年 鉄道技術研究所鉄構造研究室長、68年 日本構造物設計事務所常務取締役技師長、72年 住友重機械工業技師長、77年 大同工業大学建設工学科教授
原 紀	1918	九大	1941	○			1945年 三菱重工長崎造船所、復員と同時に復職、70年 同修繕部長、72年 同企画部長、73年 同下関造船所副所長、75年 九州三菱重冷機代表取締役社長
橋本 敏郎	1920	東大	1942				1945年 鉄道技術研究所嘱託、48年 石川島重工、53年 同造船部船殻第一工場課長、57年 同造船部船殻第二工場課長、61年 石川島播磨重工業東京第二工場船殻工務部長、66年 同海外事業本部副部長、76年 同取締役
馬場 義輔	1921	東大	1942				1946年 日本造船、49年 昭和造船車輦課長、51年 富士造船車輦取締役、55年 防衛庁海上幕僚監部技術部、58年 同技術研究本部技術開発官付、63年 同海上幕僚監部技術部艦政課長、75年 日本鋼管調査役、83年 防衛技術協会参与
橋本 隆年	1919	九大	1942	○			1945年 三菱重工長崎造船所、復員と同時に復職、59年 三菱造船長崎造船所船殻工務部外工業工場長、68年 三菱重工長崎造船所船殻工務部長、72年 同長崎造船所副所長、77年 同取締役船舶事業本部部長、82年 常務取締役船舶旗幟事業本部長
春永 盛生	1920	東大	1943	○			1945年 三菱重工、復員と同時に復職、46年 九州造船、47年 運輸省、69年 日本船舶輸出組合常務理事、72年 船舶整備公団理事、78年 日本小型船舶相互保険組合理事
長谷川 正	1921	東大	1944				1945年 浦賀船渠、55年 同外業部新船渠係長、57年 同艦艇部艦艇課長、62年 鎮機部鉄橋課長、64年 呉造船所、68年 石川島播磨重工業呉造船所修理部副部長、70年 同呉新宮工場検査部長、79年 石川島検査計測技術部長
浜崎 周作	1921	九大	1944				1945年 同川南工業香焼島造船所、52年 日立造船岡山工場、64年 同神奈川工場造船課長、72年 同岡山工場修繕部長、75年 兼松江商出向（瀬戸内造船工場長）
橋本 裕起	1924	大阪工専	1944				1949年 日立造船設計部造船設計課、52年 同桜島工場、82年 ニチゾノ陸機設計
広幡 増弥	1903	東大	1927				1945年 ブラウニング・ブラザーズ・ガレージ共同経営（51年まで）、51年 浦賀船渠、57年 同第一営業部長、63年 同船舶事業部艦艇営業部長、66年 船舶整備公団参与
船越 卓	1908	東大	1932				1945年 復員官、大蔵省監理官、48年 横浜工作所取締役、58年 設計会社社長、61年 I H Iクラフト監査役、取締役工場長、68年 舟艇協会理事
福井 経彦	1909	九大	1934		○		1945年 中央水産業会主事、47年 東京化工常務取締役、49年 東造船造船部長、65年 林業造船取締役

表3-6 戦後における元造船官の経歴

氏名	生年	出身学校	卒業年	短現	転官	離任	戦後の経歴
藤本 正	1918	東大	1940			1955年	米国船舶協会 (84年退社)
深水 正保	1918	阪大	1941	○		1945年	横河橋梁製作所, 61年 橋梁設計事務所
藤野 宏	1922	東大	1943			1945年	石川島重工業, 46年 明業工業, 47年 同品川工場長, 48年 池上製作所工務課長, 49年 日立造船, 60年 同船舶営業部業務課長, 62年 同船舶営業部新造船課長, 67年 同船舶事業本部第一国内船営業部長, 73年 日立造船シー・ピーアイ取締役副社長 (出向, 76年より専任), 83年 山和船舶取締役副社長, 89年 ジェイ・アイ・シー・エス代表取締役社長
福田 淳一	1920	九大	1943	○		1946年	九大工学部講師 (造船学科), 47年 同助教, 84年 三菱重工長崎造船所常勤顧問
布施 秀三	1921	阪大	1944			1945年	旭造船, 49年 藤永田造船所, 68年 三井造船鉄構工事専務取締役, 72年 同玉野鉄構造機械工場長, 77年 同鉄構土木事業部副事業部長, 80年 三井造船設計課長, 77年 内海造船取締役設計部長, 83年 同常勤監査役
本田 修三	1923	横浜高工	1943	○		1945年	日立造船因島工場, 復員と同時に復職, 68年 同造船設計課長, 77年 同造船設計課長, 83年 同取締役社長
松田 良雄	1898	東大	1923			1945年	宇品造船, 50年 水道工社会社, 55年 防衛庁嘱託, 65年 某社 (神戸), 69年 松田工業
松下 雄一	1913	東大	1939	○		1945年	三菱重工長崎造船所, 復員と同時に復職, 52年 三菱造船長崎造船所造船設計部船舶設計課長, 56年 同造船設計部生産設計課長, 57年 同船殻工作部内業工場長, 59年 同下関造船所設計部造船設計課長, 61年 同船舶工作課長, 65年 三菱重工本社会船舶技術部調査役, 70年 山丸本社参与
○松村 果	1923	横浜高工	1944	○		1945年	三菱重工長崎造船所, 復員と同時に復職, 46年 第二復員省, 半田金属工業, 48年 中央ゴム, 49年 栗田工業取締役設計本部長, 74年 栗田整備常務取締役, 85年 松村技術士事務所開設
◎牧山 幸弥	1911	東大	1935			1945年	中央水産業会資材部漁船課, 48年 運輸省関東海運局船舶部造船課, 49年 海上保安庁長官官房技術課, 53年 保安庁技術研究所第五部長, 57年 防衛大学校教授
溝口 三雄	1903	九大	1930		○	1946年	大島産業, 51年 日本温湿科学研究所創立, 56年 日本温湿科学研究所代表取締役社長, 86年 同取締役
三嶋 忠雄	1907	東大	1932			1945年	大野興業, 50年 大野興業, 50年 長崎農産化工工場長, 53年 西重機械加工組合フランジ工場長, 56年 深堀造船所, 65年 大洋造船所所長, 67年 大長崎建設専務取締役
南 一枝	1913	東大	1938	○		1945年	日立造船松島工場 (38年造船工作課入社), 57年 同造船部長, 64年 同因島工場長, 67年 同取締役 (堺工場長), 69年 同船舶事業本部副本部長
宮下 義一	1918	東大	1942	○		1948年	日立造船松島工場造船課, 56年 同修繕課長, 60年 同神奈川工場造船課長, 64年 同船舶部長, 71年 同理事, 72年 同神奈川工場長, 77年 富岡機械製作所取締役社長
村上 外雄	1908	東大	1931			1945年	石川島重工業東京第二工場造船部設計課長, 50年 同東京第二工場造船設計部長, 56年 同取締役技術本部技術副長, 58年 同東京第二工場長, 60年 石川島播磨重工業理事船舶事業部副事業部長, 65年 日本舟艇振興会理事長, 70年 石川島播磨重工業理事船舶営業本部長, 74年 アイエヌイクラフト取締役社長, 84年 造船会長
村田 章	1916	東大	1940			1947年	日本鋼管, 69年 同清水造船所所長, 72年 佐保重工業造船所所長, 76年 同代表取締役社長
村上 正孝	1920	東大	1942			1945年	播磨造船所, 52年 N B C呉造船部, 62年 呉造船所, 73年 波止浜造船, 78年 西日本設計
村上 元夫	1918	九大	1943			1946年	林兼造船, 57年 同造船設計課長, 64年 同取締役造船設計部長, 71年 取締役下関造船所副所長, 74年 同常務取締役下関造船所所長, 79年 同常勤顧問
船本 栄太郎	1924	大阪工専	1944	○		1945年	播磨造船所, 復員と同時に復職, 73年 石川島播磨重工業知多工場長, 77年 同船舶事業部副事業部長, 78年 同相生事業所所長, 80年 同知多事業部長, 82年 播磨生活協同組合組合長
諸岡 篤	1908	東大	1933			1946年	佐保船舶工業, 47年 川南工業作業部部長, 伊万里湾重工業取締役, 55年 三保造船所東京事務所所長, 58年 同取締役
森 健四郎	1920	東大	1944			1949年	日立造船因島工場, 66年 同船殻内業課長, 69年 田熊造船出向, 72年 内海造船出向, 73年 日立造船技術開発本部技監, 75年 今井造船船籍
元良 誠三	1922	東大	1944			1945年	同員と同時に復職, 47年 東京大学助教, 63年 東京大学教授 (船舶工学第5講座担当), 81年 日本造船学会会長, 82年 長崎総合科学大学学長, 85年 日本造船振興財団理事
○森山 悦郎	1922	阪大	1944	○		1946年	海事協会, 49年 日立造船松島工場造船課, 64年 同検査課長, 66年 同堺工場船舶部作業課長, 68年 舞鶴重工業出向, 71年 日立造船舞鶴工場技監部長, 75年 同技術開発本部技術部長, 77年 同理事, 80年 日立造船非破壊検査顧問
山口 宗夫	1907	九大	1930			1952年	三菱造船, 62年 同技術部長, 65年 三菱重工工業取締役船舶事業部副事業部長
矢野 鎮雄	1912	九大	1935		○	1945年	因島ドック, 64年 呉造船所, 68年 石川島播磨重工業, のち代表取締役副社長, 77年 白竹鉄工代表取締役社長, 78年 石川島建材代表取締役社長
安野 竹三	1917	東大	1941			1945年	東北船渠, 53年 海上自衛隊, 67年 ロイド船級協会, 85年 東洋工学専門学校
山脇 正輔	1917	阪大	1942	○		1945年	三菱重工工業横浜造船所造船部長, 復員と同時に復職, 51年 東日本重工工業横浜造船所機装部係長, 56年 三菱日本重工工業横浜造船所修繕課長, 58年 同機装部課長, 66年 同機装部課長, 66年 同機装部課長, 72年 同機装部長, 75年 三菱重工工業横浜造船所
山内 保文	1919	東大	1943			1945年	播磨造船所, 46年 鉄道技術研究所第七部, 48年 運輸省運輸部長, 49年 鉄道技術研究所造船研究室, 50年 同運輸技術研究所船舶性能部運輸技官, 62年 運輸技術研究所船舶性能部長, 63年 船舶技術研究所運動性能部長, 72年 同所長, 73年 三井造船理事技術本部副部長, 81年 日本大学理工学部講師

表3-7 戦後における元造船官の経歴

氏名	生年	出身学校	卒業年	短現	転官	離任	戦後の経歴
山形 聡	1922	九大	1943				1945年 小柳造船所, 51年 佐世保船舶工業, 55年 同造船部作業課長, 57年 同造船部作業課長, 59年 同艦艇設計部造船課長, 63年 佐世保重工業艦艇部次長, 66年 同艦艇部長兼造船課長兼造船機課長, 78年 艦艇技術サービス
山下 龍雄	1920	東大	1943	○			1947年 南国特殊造船 52年 海上自衛隊 72年 日立造船機託, 80年 大機ゴム工業顧問
由利 健一	1919	東大	1943	○			1945年 播磨造船所相生工場, 復員と同時に復職, 46年 同呉船渠, 52年 NBC呉造船部溶接係長, 内業課長, 62年 呉造船所技術開発室長, 68年 石川島播磨重工業船舶事業本部工作技術開発室
吉田 隆	1912	九大	1936				1945年 日本造船設計課長, 50年 アメリカ船級協会検査員, 52年 飯野産業技術課長, 56年 飯野重工業造船部次長, 62年 舞鶴重工業艦艇兵器部部長, 67年 同艦艇兵器部部長代理, 70年 日立造船常勤嘱託
吉崎 保治	1914	東大	1938	○		○	1948年 三菱重工業播磨造船所造船工作部機装工場長, 58年 三菱日本重工業播磨造船所工務課長, 61年 同機装工作部長, 62年 同造船工作部長, 65年 三菱重工業広島造船所造船工作部長, 72年 同横浜造船所所長, 73年 同取締役, 77年 三菱重工業環境エンジニアリング取締役社長
吉田 虎四郎	1915	東大	1940	○		○	1942年 三菱重工業江南造船所 (短現より復職), 46年 同横浜造船所造船工作部, 64年 同鉄構部長, 71年 石井鉄工所常務取締役技術部長, 90年 日本エンジニアリング取締役
米田 義男	1918	東大	1941				1946年 播磨造船所, 48年 石川島重工業 64年 石川島播磨重工業東京第二工場艦艇建造部長, 71年 同マリコンサルタント事業部管理部長, 77年 山西造船鉄工所
吉成 正	1916	東大	1939	○		○	1945年 日本郵船工務部復社, 船舶運営会出向 (49年まで), 69年 太平洋汽船常務取締役
横山 春樹	1918	東大	1941	○		○	1945年 出雲造船, 47年 中村造船鉄工所, 50年 郡田印刷紙器, 83年 同取締役社長
横山 信立	1918	東大	1942				1945年 舞鶴工機監理部, 46年 運輸省鉄道総局船舶課, 52年 水産庁生産部造船研究室, 61年 同漁船研究室長, 69年 東海大学海洋学部教授, 85年 同学部長
吉武 有真	1921	阪大	1943	○			1945年 大阪商船, 復員と同時に復職, 47年 山口県庁建築課, 58年 運輸省運輸技官 (九州海運局船舶部), 69年 日本海事協会
横田 健	1921	東大	1944				1945年 播磨造船所, 64年 石川島播磨重工業相生造船所第一工場長, 67年 同横浜造船所第二工場長, 69年 同船舶事業本部副本部長, 70年 同陸上担当に転身
米倉 邦彦	1923	東大	1944	○			1945年 三菱重工業長崎造船所, 復員と同時に復職, 64年 同本社 (船舶設計), 72年 同長崎造船所 (船舶設計), 78年 同下関造船所所長, 82年 同取締役造船事業本部副本部長, 85年 同常務取締役化学プラント事業本部部長
吉川 次郎	1921	阪大	1944	○			1945年 三井造船玉野造船所, 復員と同時に復職, 46年 佐世保船舶工業出向, 47年 三井造船玉野造船所復職, 66年 同造船工場検査部長, 68年 同機装部長, 70年 同船殻工作部長, 72年 四国ドック常務取締役
養玉田 正夫	1923	横浜高工	1944				1945年 日本鋼管鶴見造船所, 69年 同津造船所, 72年 函館ドック出向, 75年 日本鋼管, 78年 東京シャーリング
吉村 治	1925	大阪工専	1944	○			1945年 近畿日本鉄道, 57年 同検車課長, 60年 同車輻工場課長, 66年 同工機部長, 72年 労務部長, 82年 新・都ホラル専務取締役・総支配人
若松 守朋	1916	東大	1939				1945年 復員局復員官, 46年 播磨造船所呉船渠, 51年 NBC呉造船部資材課長, 53年 浦賀船渠設計部副部長, 58年 同設計部長, 63年 日本アルゴンクイン取締役社長, 86年 日本ハイヒート取締役会長
渡辺 英一	1916	東大	1940				1950年 佐世保重工業東京本社技術部, 55年 防衛庁海上自衛隊, 技術研究本部, 70年 佐世保重工業佐世保造船所顧問
和田 猪一	1916	東大	1941				1945年 日本造船, 49年 海上保安庁海上保安官, 52年 防衛庁海上警備官, 69年 住友商事
和田 壽	1921	九大	1943				1945年 播磨造船所, 同呉船渠, 54年 呉造船所, 68年 石川島播磨重工業船舶事業本部外国船営業部長, 69年 同ニューヨーク事務所所長, 72年 同船舶営業本部副本部長, 79年 日村鉄工所所長, 81年 東京セールス代表取締役社長
和田 稔	1919	東大	1943	○			1945年 川崎重工業泉州工場, 復員と同時に復職, 49年 同神戸工場, 52年 同造船設計部資材部長, 58年 同資材部課長, 62年 伊藤忠商事出向, 68年 川崎重工業神戸工場アフターサービス部長, 70年 同艦艇営業部長兼海洋機器営業部長

Materials on the Trajectory of Former Naval Shipbuilding Officers in the Postwar Period

Minoru Sawai

Naval shipbuilding officers played a decisive role in the building of naval vessels. Naval shipbuilding officers were divided into the technical officers (Bukan) and naval engineers (Bunkan). In 1938, the short active duty system was introduced in response to a large demand for engineers in war period, under which university or college graduates who found their jobs in the private ship building companies, etc., were called up as the technical officers in principle for two years, then come back to the original jobs after naval service. By means of the introduction of this system, the number of technical officers rapidly increased. In 1939, it became possible to convert from the naval engineers to the technical officers.

At the end of the Pacific War, 522 naval shipbuilding officers were charge of building and repair works of naval vessels, of which 350 were technical officers, 168 were naval engineers, four were non-regular staff. Following tables show the trajectory of these former naval shipbuilding officers in the postwar years. Ex-naval shipbuilding officers experienced severe conversion from military related sectors to the private sectors. Following tables would help consider the significance of technical “legacy” to the postwar period.